YAMAHA



F9.9J
FT9.9L

船外機取扱説明書

⚠ 船外機をご使用になる前に取扱説明書をよくお読みになりお使いください。

6DR-28199-0D

船外機をご使用になる前に取扱説明書をよくお読みになりお使いください。航海する時は、本書を防水バッグなどに入れて、お客様のボートの適切な場所に保管してください。船外機を売却される場合は、本書を添付してください。

JMU30127

お客様へ

ヤマハ船外機をお買い上げ戴きまことにありがとうございます。
この取扱説明書は、船外機の正しい取り扱い方法と簡単な点検、整備について説明してあります。
万一、取り扱いを誤ると重大な事故や故障等の原因となります。
船外機の取り扱いを十分ご存知の方も製品独自の装備や取り扱いがありますので、ご使用される前には本書を必ずお読みいただき、またご使用時には携帯し安全快適なマリンライフをお楽しみください。
本書では正しい取り扱い、および点検整備に関する必要な事項を下記のシンボルマークで表示しています。

⚠ 安全に係わる注意情報を意味しています。

JWM00782

⚠警 告

取り扱いを誤った場合、死亡または重傷及び傷害に至る可能性がある場合を示しています。

JCM00702

注 意

取り扱いを誤った場合、船外機または他の物的損害に至る可能性がある場合を示しています。

要 点：

正しい操作の仕方や点検整備上のポイントを示してあります。

取扱説明書と保証書について

仕様の変更などにより、取扱説明書の図や内容と実機が一部異なる場合があります。ご了承ください。

取扱説明書は大切に保管し、船外機の転売や譲渡等をされる場合は必ず添付してください。
保証書はよくお読みいただき裏面の取扱店名、捺印をご確認のうえ、大切に保存してください。

製品を長くご愛顧頂く為に

この取扱い説明書に従った製品の正しい取扱いや、指定の定期点検／保守を行っていただくことを推奨致します。上記の注意事項に従わずに何らかの損害が発生した場合、保証の対象外になりますのでご注意ください。

製品を国外へ持ち出しのお客様へ

国によっては法令／規制の関係で持ち出す事が出来なかったり、登録出来なかったりする可能性があります。また、保証が一部地域で適用されない場合もございます。もしお客様が製品を国外へ持ち出して使う場合は、詳細を購入販売店に相談してください。

製品の個人転売を受けたお客様へ

お客様再登録のため最寄の販売店にご相談していただき、所定のサービスを受けられる様にしてください。

ご不明な点や不具合なところがありましたら、お早めにお買い上げのヤマハ取扱店にご相談、またはお申しつけください。
ヤマハ取扱店では、お客様の良きアドバイザーとしてご来店をお待ち申し上げております。

要 点：

本書では内容や図は F9.9JMH, F9.9JWH, FT9.9LWHを基本に標準的な装備品を想定して説明しております。モデルや仕様によっては適合しない項目もあります。

目次

安全にご使用するにあたって.....1
安全にお使いいただくために 1
プロペラ 1
回転部品 1
高温部品 1
感電の危険性 1
エンジンシャットオフコード（ランヤード） 1
ガソリン 2
ガソリンの蒸発と流出の注意 2
一酸化炭素 2
改造 2
ボート運転安全性 2
飲酒と薬の服用について 2
ライフジャケット 2
遊泳者への注意 2
乗船者 2
過積載 3
衝突を回避する 3
水中の障害物および浮遊物への注意 3
天候 4
乗船者の訓練 4
ボート航行の安全に関する告知 4
法令および規制 4

お使いいただく前に.....5
製造番号の記録 5
船外機製造番号 5
マニュアル類と製品安全ラベルをお読みください 6
警告ラベル 6

基本事項と仕様諸元.....9
仕様諸元 9
ボートへの設置条件 10
ボートの定格馬力 10
船外機の取り付け 10
バッテリーに関する項目 10
バッテリーの仕様 10
バッテリーを取付けるには 11
プロペラ 11
始動安全装置 12
エンジンオイルに関する項目 12
ギヤオイル 13
燃料に関する項目 13
ガソリン 13
泥水または酸性水 13
船底の清掃 14
船外機の廃棄に関する項目 14
非常時の装備 14

構成部品.....15
各部の名称 15
燃料タンク 17
燃料ホースコネクター 18
燃料計 18
燃料タンクキャップ 18
エアベントスクリュ 18
ティラーハンドル 18
ギヤシフトレバー 18
スロットルコントロールグリップ ... 18
スロットルインジケーター 19
スロットルフリクションアジャスター 19
緊急エンジン停止スイッチ 19
エンジン停止ボタン 20
チョークノブ（プルタイプ） 20
マニュアルスターターハンドル 20
エンジン始動ボタン 20
ステアリングフリクションアジャスター 21
チルトピン 21
チルトロック機構 22
チルトサポートバー 22
カウルロックレバー 22
水洗装置 22
警報灯 23

計器類・警報灯／表示.....24
警報灯 24
油圧低下警報表示 24

目次

エンジン制御装置 25
警報装置 25
油圧低下警報 25

船外機の取り付け 26
船外機の取り付け 26
ボートトランサムへの取り付け 26
船外機の取り付け 28

運転と操作 29
初めてお使いになる前に 29
エンジンオイルの補給 29
慣らし運転 29
ボートをよく知ろう 29
始動前点検 30
燃料残量 30
トップカウルの取り外し 30
燃料系統 30
コントロールシステムの点検 30
エンジンシャットオフコード（ランヤード） 30
エンジンオイル 31
船外機本体 31
水洗装置 31
トップカウルの取り付け 32
バッテリー 32
燃料タンクへの給油 32
エンジン操作 33
燃料供給（燃料タンク別体仕様） 34
エンジン始動 34
エンジン始動後の点検 40
冷却水 40
暖機運転 40
手動／電動始動仕様 40
暖機運転後の点検 41
シフト操作 41
エンジン停止スイッチ 41
前進／後進 41
停船 42
エンジン停止 42
停止ボタン仕様 42
船外機トリム角度 43
トリム角度の調整（マニュアルチルト仕様） 43
トリム角度の設定とボートの取り扱い 44
チルトアップ／ダウン 45
チルトアップ（マニュアルチルト仕様） 45
チルトダウン（マニュアルチルト仕様） 46
浅瀬航走 46
浅瀬航走（マニュアルチルト仕様） 46
他の航走状況 47

点検と整備 49
運搬と保管 49
船外機の取り外し 49
長期保管 51
保管手順 51
潤滑 52
エンジン内部冷却経路の洗浄 53
船外機の洗浄 53
船外機外装の点検 54
定期点検 54
シビアコンディション 54
定期点検表 1 55
定期点検表 2 56
グリス給脂箇所 58
スパークプラグの点検 59
燃料フィルターの点検 59
アイドル回転数（無負荷最低速回転）の点検 60
エンジンオイルの交換 60
配線と各接続部の点検 62
プロペラの点検 62
プロペラの取り外し 63
プロペラの取り付け 64
ギヤオイルの交換 65
アノードの点検 66
バッテリーの点検（電動始動仕様） 67
バッテリーの取り付け 68
バッテリーの取り外し 68

目次

付属工具と部品 68

不具合時の対応 70
故障と対策 70
応急処置 73
衝撃を受けた場合 73
ヒューズの交換 73
始動装置が作動しない場合 74
応急始動 74
エンジンが正しく作動しない場合 75
非常時のエンジン操作 75
船外機を水中に落とした場合 76

附録 78
メンテナンスに関する各種サポート情報 78
お客様窓口のご案内 79

索引 80

JMU33623

安全にお使いいただくために

船外機特有の安全に係わる特性を、以下に記述します。危害を避けるために、指示された内容を守ってください。

JMU36502

プロペラ

プロペラに接触すると、負傷または死亡する恐れがあります。船外機のシフトが中立（ニュートラル）の時でもプロペラは回転を続ける可能性があります。またプロペラが止まっている状態でも、鋭利な縁で身体を切る恐れがあります。

- ボート付近に遊泳者がいるときは、直ちにエンジンを停止してください。
- エンジンが停止している時でも、プロペラの回転範囲内に近づかないようにしてください。

JMU40272

回転部品

手や足、髪、装飾品、衣服、ライフジャケットのストラップなどが、エンジン内部の回転部品に挟まれたり、あるいは巻き込まれて負傷したり死亡する危険があります。

トップカウルは、可能な限り取り付けておいてください。エンジンを運転させたままトップカウルを外したり、交換したりしないでください。

トップカウルを外してエンジンを始動するときは、本書に示された手順に従ってください。トップカウルを外したときは、手や足、髪、装飾品、衣服、ライフジャケットのストラップなどを可動部品に近づけないでください。

JMU33641

高温部品

エンジン運転中および停止直後は、エンジンの各部品の表面は高温状態で、火傷の恐れがあります。エンジンが冷えるまでは、トップカウル内の各部品に手を触れないでください。

JMU33651

感電の危険性

運転中は、電装品には触らないでください。感電したり、感電死する恐れがあります。

JMU33672

エンジンシャットオフコード（ランヤード）

エンジンシャットオフコードは、操船者が誤ってボートから水中に落ちた場合や、運転席から離れた場合に、エンジンを停止できるよう衣服の丈夫な場所や手、足に確実に付けてください。こうすることにより、ボートが無人で航行することを防止し、また遊泳者や障害物に衝突することを防止できます。

エンジン運転中は、エンジンシャットオフコードを常に衣服の安全な部分、腕、または足に付けてください。ボートの航行中は、運転席から離れるためにエンジンシャットオフコードを外さないでください。エンジンシャットオフコードが正しく機能するように、エンジンシャットオフコードを衣服の外れやすい部分に付けたり、絡まないようにしてください。

エンジンシャットオフコードは誤って引っ張られないようにしてください。エンジン運転中にエンジンシャットオフコードを引くと、エンジンが急停止し操船出来なくなります。また、ボートの速度が急減速し、乗船者や物が船外に投げ出される恐れがあります。

⚠ 安全にご使用するにあたって

JMU33811
ガソリン
ガソリンは引火性です。火災や爆発の危険を避けるために、給油は33ページの手順に従ってください。

JMU33821
ガソリンの蒸発と流出の注意
ガソリンをこぼさないように、取り扱いには十分に注意して行なってください。万一ガソリンがこぼれた場合は、乾いた布ですぐに拭き取ってください。ガソリンを拭いた布は、正しい方法で廃棄してください。
ガソリンがこぼれて皮膚についた場合は、ただちに石けんと水で洗い流してください。ガソリンが衣服に付着した場合は、着替え等を行ってください。
誤ってガソリンを飲み込んだ場合、気化したガソリンを大量に吸い込んだ場合、またはガソリンが目に入った場合は、ただちに医師の診断を受けてください。決して、ホースの端を口にくわえてガソリンを吸い上げたりしないでください。

JMU33901
一酸化炭素
排気ガスは一酸化炭素を含み中毒をおこす恐れがあります。ボートハウスなどの閉め切った場所ではエンジンを始動させないでください。

JMU33781
改造
船外機は改造しないでください。船外機を改造すると安全性や信頼性が低下し、危険なだけでなく法律違反となります。

JMU33742
ボート運転安全性
この項では、航行時に守らなければならない安全上の大切な注意事項が示されています。

JMU33711
飲酒と薬の服用について
飲酒または薬を服用した後は、ボートを操船しないでください。ボートの死亡事故のもっとも一般的な原因の一つが、酔った状態での操船によるものです。

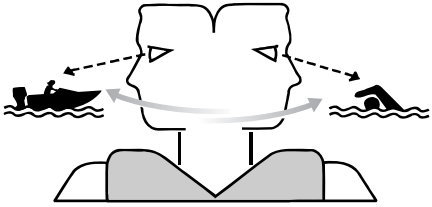
JMU40281
ライフジャケット
認定されたライフジャケットを定員分、ボートに備えてください。乗船者はボートの用途に合った日本小型船舶検査機構（JCI）認定の救命胴衣（ライフジャケット）を必ず着用してください。

JMU33732
遊泳者への注意
航行中は、スキーヤー、ダイバーなどの遊泳者に注意してください。ボート付近に遊泳者がいる時は、シフトを中立（ニュートラル）にして、エンジンを停止してください。
遊泳者は見えにくいので海水浴場には近づかないでください。
プロペラはシフトが中立（ニュートラル）の位置でも回転します。付近に遊泳者がいる時は、エンジンを停止してください。

JMU33752
乗船者
ボート上の正しい乗船席をボートメーカーに確認し、アイドル回転数以上の速さで運転する場合は、乗員が正しい位置に座っている事を確認してください。立っていたり指定された場所以外に座っていると、波や航跡で、またはスピードや進路が急に変った場合に、船の内外に投げ出される可能性があります。乗員が指定の安全な場所に座っている場合でも、通常では行わないような運転をする場合は乗員に警告してください。波や航跡をジャンプする事は常に避けてください。

JMU33763
過積載
船体の最大積載量が超過しないようにしてください。船体の最大積載量や定員に関しては、船体に取付けられた銘板を参照するか、船体製造メーカーにご照会ください。船体製造メーカーの指示内容に従い、重量を正しく分散するようにしてください。過積載または重量の偏りがあると、ボートの操船が難しくなり、事故、転覆、浸水の原因になります。

JMU33773
衝突を回避する
遊泳者、障害物、そして他のボートに常に注意を払ってください。視界が制限されたり妨げられる状況に警戒してください。

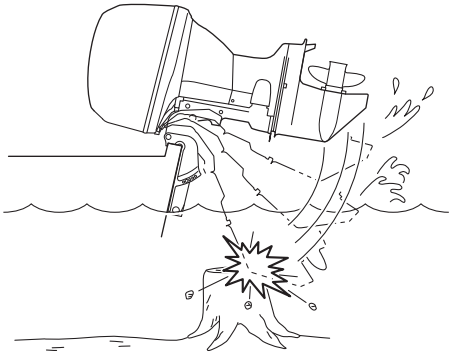


ZMU06025

遊泳者、障害物、他のボートから十分に安全な距離を保ち、回避できる安全な速度や距離を保って航行してください。
- 他のボートや水上スキーをしている人の背後を追走しないでください。
- 急旋回等、周囲の操船者が予想困難な航行は行わないでください。
- 水中物体のある水域や浅水域の航行は避けてください。
- 制御不能、衝突や、海に投げ出されたりするリスクを小さくするため、ご自身の能力の範囲内で運転し、無謀な操縦は避けてください。
- 衝突を避けるために、早めの対処をしてください。ボートにはブレーキがなく、またエンジンを停止したりスロットルを戻したりすると、操舵力が低下することを忘れないでください。障害物に衝突する前に停止するかどうか確信が持てない場合は、スロットルを入れて別方向に進んでください。

JMU48100
水中の障害物および浮遊物への注意
航走中に浮遊物や、水中の障害物に接触した場合、次の状況が想定されます。
- 急減速により、同乗者や荷物が前方に投げ出される恐れがあります。
- 衝撃により船外機の部品が外れ、船内に飛んでくる恐れがあります。
- 衝撃により、ボートまたは船外機が損傷する恐れがあります。

浮遊物や水中に障害物が存在する可能性がある場所でボートを操船するときは、船外機のトリム角度を調整し、速度を下げて慎重に航行してください。詳細は、46 ページを参照ください。
もし浮遊物や水中の障害物に接触した場合は、船体および船外機に異常が無いことを確認します。異常があった場合は低速で最寄の港へ引き返してください。帰港後はヤマハ販売店の点検を受けてください。



⚠ 安全にご使用するにあたって

JMU33791
天候
常に最新の天候を知るようにしてください。出航する前に天気予報を確認してください。荒天時には決して出航しないでください。

JMU33881
乗船者の訓練
少なくとも 1 人の乗船者が、緊急時にボートを操舵する訓練を受けていることを確認してください。

JMU33891
ボート航行の安全に関する告知
ボート航行の安全に関する情報を常に入手してください。詳しい発表内容や情報は、ボート航行の安全のための多くの組織から入手できます。

JMU33602
法令および規制
ボートで航行する場合は、航行するに関する法律および規則を理解し、それに従ってください。地域によっては一部の規則が優先されますが、基本的にはすべて International Rules of the Road(国際海上航行規則) と同じです。

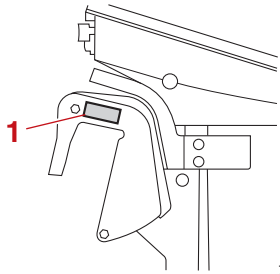
JMU25172

製造番号の記録

JMU25186

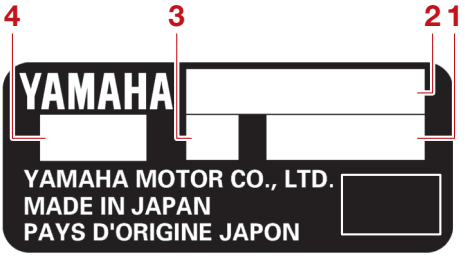
船外機製造番号

製造番号は、クランプブラケットの左舷側に貼ってあります。
ヤマハ取扱店への部品注文の際や盗難にあったときのために、空欄に番号を控えておくと便利です。



ZMU05335

1. 船外機製造番号貼付場所



1. 製造番号
2. モデル名
3. トランサム高さ
4. エンジン型式

お使いいただく前に

JMU33524

マニュアル類と製品安全ラベルをお読みください

船外機をご使用または整備を始める前に：

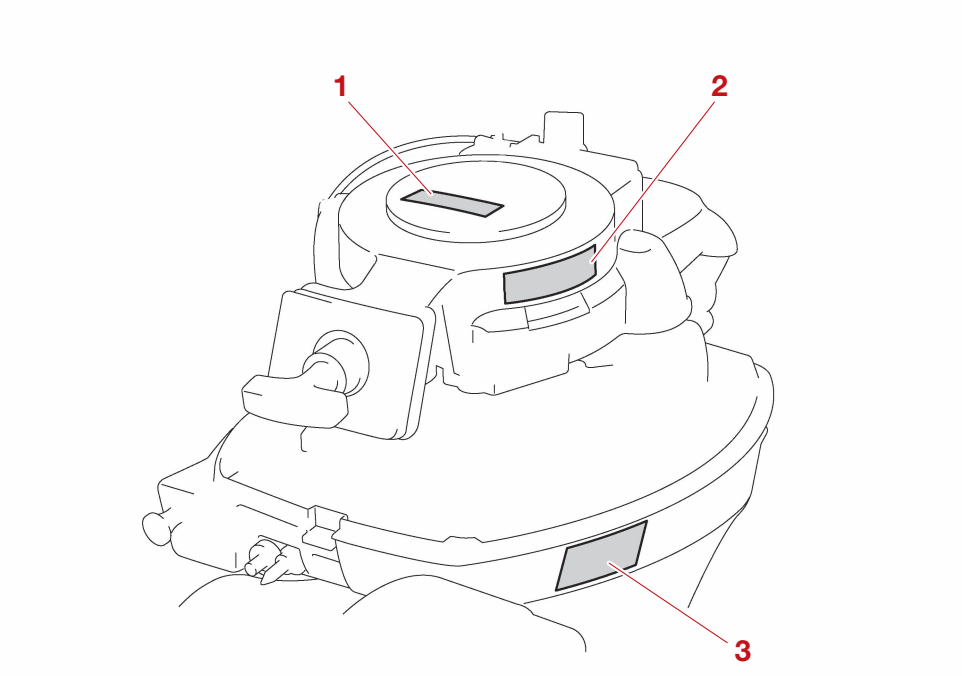
- 本書をお読みください。
- お客様のボートに備えられているマニュアル類はすべてをお読みください。
- 船外機とボートのすべてのラベルをお読みください。

ご不明な点があれば、ヤマハ販売店にご相談ください。

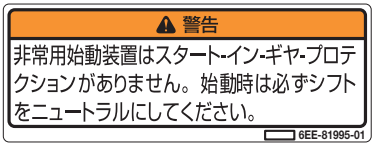
JMU33836

警告ラベル

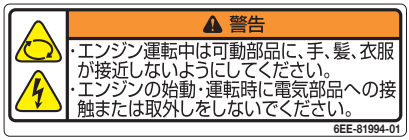
警告ラベルが損傷または紛失している場合は、ヤマハ取扱店で交換してください。



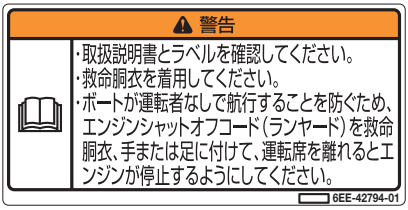
1



2



3



JMU33913

ラベルについて

上記のラベルに記載されている内容は、以下のようになります。

1

JWM01692

⚠警 告

非常用始動装置はスタート - イン - ギヤ - プロテクションがありません。始動時は必ずシフトをニュートラルにしてください。

2

JWM01682

⚠警 告

- **エンジン運転中は可動部品に、手、髪、衣服が接近しないようにしてください。**
- **エンジンの始動・運転時に電気部品への接触または取外しをしないでください。**

3

JWM01672

⚠警 告

- **取扱説明書とラベルを確認してください。**
- **救命胴衣を着用してください。**
- **ボートが運転者なしで航行することを防ぐため、エンジンシャットオフコード（ランヤード）を救命胴衣、手または足に付けて、運転席を離れるとエンジンが停止するようにしてください。**

JMU35133

シンボル

以下のシンボルは次のような意味を示します。

注意／警告



ZMU05696

マニュアル熟読



ZMU05664

回転物注意



ZMU05665

感電注意



ZMU05666

JMU38092

仕様諸元

要　点：

下記の仕様諸元内の “(アルミ)” は、アルミプロペラ装着時の数値を示します。

JMU3061J

寸法、重量 :

全長 :
1043 mm (FT9.9LWHX)
983 mm (F9.9JMH, F9.9JWH, FT9.9LWHL)

全幅 :
371 mm (FT9.9LWHX)
373 mm (F9.9JMH, F9.9JWH, FT9.9LWHL)

全高　S:
1008 mm (F9.9JMH)

全高　L:
1135 mm (F9.9JMH, F9.9JWH)
1195 mm (FT9.9LWH)

全高　X:
1263 mm (FT9.9LWH)

船外機トランサム高さ　S:
431 mm (F9.9JMH)

船外機トランサム高さ　L:
552 mm (FT9.9LWH)
558 mm (F9.9JMH, F9.9JWH)

船外機トランサム高さ　X:
620 mm (FT9.9LWH)

乾燥重量　(アルミ)　S:
40 kg (F9.9JMH)

乾燥重量　(アルミ)　L:
41 kg (F9.9JMH)
45 kg (F9.9JWH)
47 kg (FT9.9LWH)

乾燥重量　(アルミ)　X:
48 kg (FT9.9LWH)

性能 :

全開回転域 :
5000–6000 r/min

定格出力 :
7.3 kW

アイドル回転数 :
1000–1100 r/min

パワーユニット :

形式 :
４ストローク　ＳＯＨＣ　直列２気筒　４バルブ

総排気量 :
212 cm^3

ボア × ストローク :
56.0 × 43.0 mm

点火方式 :
ＣＤＩ

スパークプラグ　(ＮＧＫ):
BR6HS-10

ギャップ :
0.9–1.0 mm

操舵方式 :
ティラハンドル

始動方式 :
マニュアルスタータ (F9.9JMH)
マニュアルスタータと電動スタータ (F9.9JWH, FT9.9LWH)

始動系 :
チョークバルブ

クリアランス（吸気）(冷機時):
0.15–0.20 mm

クリアランス（排気）(冷機時):
0.20–0.25 mm

推奨バッテリ（ＪＩＳ）:
28B17–55B24

最大発電出力 :
6 A

ロワーユニット:
ギアシフト位置:
F-N-R
減速比（ギア比）:
2.08 (27/13) (F9.9JMH, F9.9JWH)
2.92 (38/13) (FT9.9LWH)
トリム / チルト方式:
マニュアルチルト
プロペラマーク:
N (F9.9JMH, F9.9JWH)
R (FT9.9LWH)

燃料、オイル要件:
推奨燃料:
無鉛レギュラーガソリン
燃料タンク容量:
24 L
推奨エンジンオイル:
ヤマルーブ　4ストローク　マリンエンジンオイル
推奨エンジンオイルグレード1:
SAE 10W-30/10W-40/5W-30
API SE/SF/SG/SH/SJ/SL
エンジンオイル容量:
0.8 L
潤滑方式:
ウェットサンプ
推奨ギヤオイル:
船外機ギヤオイル
推奨ギヤオイルグレード:
SAE 90 API GL-4
ギヤオイル容量:
0.150 L (F9.9JMH, F9.9JWH)
0.370 L (FT9.9LWH)

JMU33556

ボートへの設置条件

JMU33566

ボートの定格馬力

JWM01561

⚠警 告

船体の最大搭載馬力を越える船外機を取り付けて航行すると、ボートが極度の不安定になる可能性があります。

単機または複数の船外機を取付ける前に、船外機の合計馬力が船体の最大搭載馬力を越えていないか確認してください。ボートの銘板を参照するか、船体の製造業者に照会してください。

JMU40491

船外機の取り付け

JWM02501

⚠警 告

- **船外機が正しく取り付けられていない場合、操船がしにくくなったり、制御不能や火災などの危険な状況を引き起こしかねません。**
- **船外機は非常に重いものですから、安全に取り付けるためには、特殊な機器と訓練が必要です。**

船外機の取り付けは、ヤマハ販売店または船外機取り付けの経験を積んだ人が正しい機器を使用し、詳細なリギングに関するマニュアルを参照しながら行なってください。詳細は、26 ページを参照ください。

JMU25695

バッテリーに関する項目

JMU25717

バッテリーの仕様

以下の仕様を満たすバッテリーをフル充電し使用します。バッテリーの電圧が低下した場合は、エンジンを始動できません。

JIS 規格；
28B17–55B24

JCM01064

注 意

規定の容量に合わないバッテリーは、使用しないでください。規定容量外のバッテリーを使用すると、電装系に供給電流が不足したり、過大な負荷が掛かったりして故障の原因になります。

JMU36293

バッテリーの設置

バッテリーホルダーは船内の乾燥した、換気の良い、振動の少ない水平な場所に確実に固定してください。周辺には可燃物、重量物または金属類を置かないようにします。**警告！ バッテリーと同じコンパートメントに可燃性のあるもの、不安定な重い物、金属物を入れないでください。火災、爆発または火花が発生することがあります。**[JWM01821]

バッテリーコード

バッテリーコードのサイズと長さは重要です。バッテリーコードのサイズと長さについては最寄りのヤマハ販売店にご相談ください。

JMU44771

バッテリーを取付けるには

JCM01091

注 意

レクチファイヤー、またはレクチファイヤー / レギュレーターが付いていない仕様は、バッテリーの取付けは出来ません。

バッテリーを使用するには、お使いの船外機に以下の部品が搭載されている必要があります。

- レクチファイヤーまたはレクチファイヤー / レギュレーター
- ライティングコイル

上記の部品が搭載されているか判断できないときは、ヤマハディーラーにお問い合わせください。

魚群探知機などのアクセサリーに接続する場合は、高電圧により、故障の原因となる恐れがあります。オプションのレクチファイヤー / レギュレーターを取付けるか電源の電圧が 18 ボルト以上に耐えるアクセサリーを使用してください。レクチファイヤーまたはレクチファイヤー / レギュレーターの取付けについては、ヤマハ販売店にご相談ください。

JMU34196

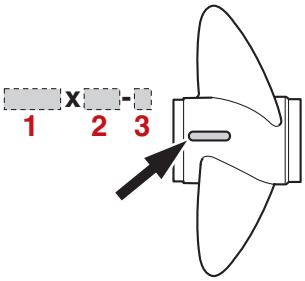
プロペラ

ボートのオーナーにとって、プロペラの選択は船外機の次に重要な選択です。プロペラのタイプ、サイズ、そしてデザインは加速力、燃費、そしてエンジンの寿命にも直接影響してきます。ヤマハは各ヤマハ船外機に応じたプロペラを設計、製造しています。

お買い求めになった船外機には、多様な条件下を想定して最適と思われるプロペラを搭載していますが、用途により、他のプロペラの方が適している場合もあります。

ヤマハのディーラーは、お客様の必要に合わせたプロペラを選ぶお手伝いをします。最大積載量時にフルスロットルでエンジンの回転範囲の半分より上になるようなプロペラを選んでください。一般的に小さな負荷運転に対してはピッチの大きなプロペラ、負荷が大きければピッチの小さなプロペラを選びます。ボートの負荷に大きな変動がある場合は、最大負荷に合わせてプロペラを選びますが、負荷が小さいときにはエンジンスピード範囲内になるようにスロットルの設定を下げる必要があるかもしれません。

プロペラの点検に関しては、62 ページを参照してください。



ZMU04606

1. プロペラ直径（インチ）
2. プロペラピッチ（インチ）
3. プロペラの種類（プロペラマーク）

JMU39192

始動安全装置

ヤマハ船外機には、ギヤが前進または後進に入っているときはエンジンの始動ができないように、安全装置が装備されています。エンジンを始動する際は、シフトを必ず中立（ニュートラル）にしてから行ってください。

JMU39693

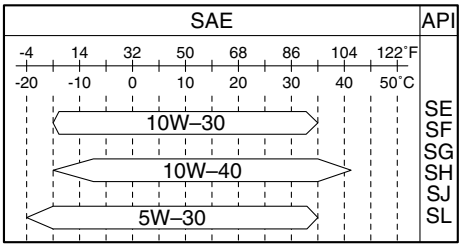
エンジンオイルに関する項目

船外機を使用している地域の温度環境に合ったエンジンオイルを選んでください。

推奨エンジンオイル：
ヤマルーブ　4ストローク　マリンエンジンオイル
推奨エンジンオイルグレード 1：
SAE 10W-30/10W-40/5W-30
API SE/SF/SG/SH/SJ/SL
推奨エンジンオイルグレード 2：
SAE 15W-40/20W-40/20W-50
API SH/SJ/SL
エンジンオイル容量：
0.8 L

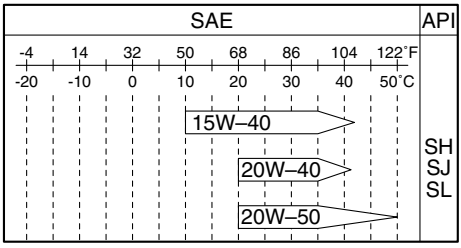
推奨エンジンオイルグレード 1 に記載されているエンジンオイルを入手できない場合、推奨エンジンオイルグレード 2 に記載されているエンジンオイルを使用してください。

推奨エンジンオイルグレード 1



ZMU06854

推奨エンジンオイルグレード 2

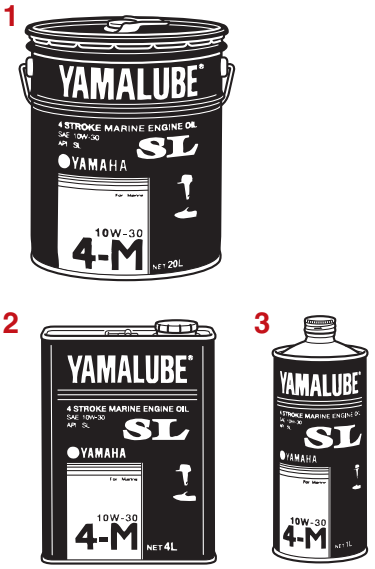


ZMU06855

ヤマハ純正エンジンオイルについて

ヤマハ純正エンジンオイルはヤマハ船外機、マリンジェット4ストロークエンジン用に開発されたエンジンオイルです。

ヤマハ純正エンジンオイル；
ヤマルーブ 4 ストロークマリンエンジンオイル　10W-30　SL

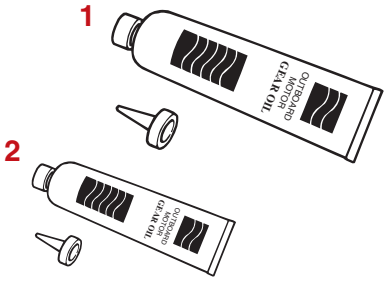


1. 20L
2. 4L
3. 1L

JMU30103

ギヤオイル

推奨ギヤオイル：
船外機ギヤオイル
推奨ギヤオイルグレード：
SAE 90 API GL-4
ギヤオイル容量：
0.150 L (F9.9JMH, F9.9JWH)
0.370 L (FT9.9LWH)



1. 800ml
2. 350ml

JMU36361

燃料に関する項目

JMU40182

ガソリン

JCM01982

注 意

- **有鉛ガソリンを使用しないでください。有鉛ガソリンはエンジンに損傷を与える恐れがあります。**
- **燃料タンク内に水や不純物が入らないようにしてください。汚れた燃料は性能低下やエンジンの損傷を招く恐れがあります。必ず清潔なタンクで保管した、新しくきれいな燃料を使用してください。**

推奨燃料：
無鉛レギュラーガソリン

JMU36881

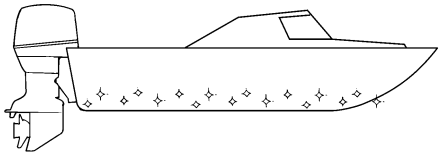
泥水または酸性水

泥水域または酸性水域で船外機をご使用になる場合は、最寄のヤマハ取扱店で別売のクロームメッキウォーターポンプキットを取り付けいただくことを、強くお勧めします。別売のクロームメッキウォーターポンプキットは船外機によって入手出来ない場合があります。

JMU36331

船底の清掃

船底の状態によってボートの性能は大きく変わります。船底は、海藻や貝類が付着しないように常にきれいに保っておくことが必要です。必要であれば、船底専用塗料を塗っておくと海藻や貝類が付着しにくくなります。塗料については、ヤマハ取扱店へお問い合わせください。



ZMU05176

JMU40302

船外機の廃棄に関する項目

船外機を不法投棄しないでください。廃棄についてはヤマハ販売店にご相談ください。

JMU36353

非常時の装備

エンジン故障に備えて以下の物を船内に常備してください。

- 各種スクリュードライバー、プライヤー、レンチ（メートルサイズ分を含む）および絶縁テープ
- 防水フラッシュライトと予備電池
- クリップ付き予備エンジンシャットオフコード
- スパークプラグのスペアセットなどの交換部品

詳しくは、ヤマハ取扱店にご相談ください。

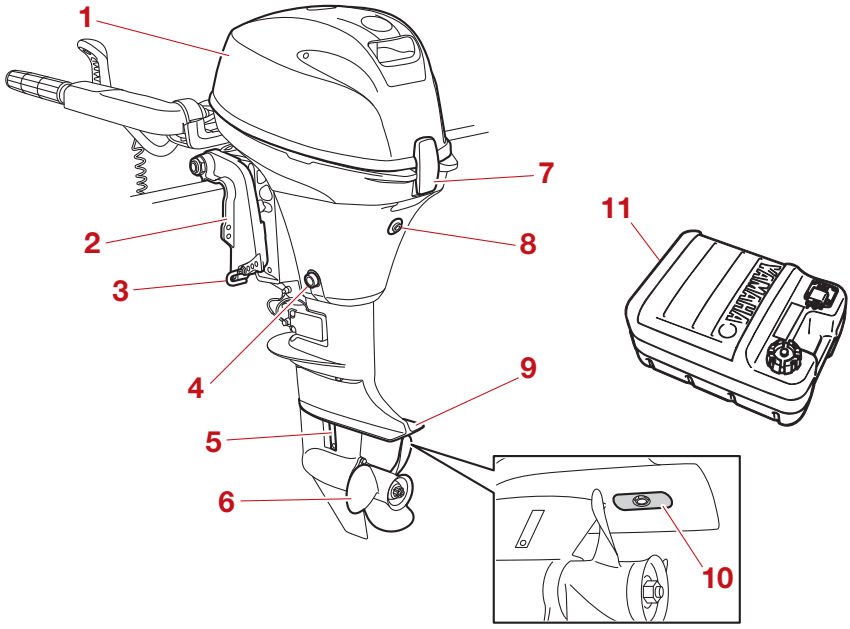
JMU46722

各部の名称

要　点：

燃料タンク、リモコン関連、メーター類、およびプロペラ等の備品はオプションとなっている場合があります。詳しくは、ヤマハ取扱店へお問い合わせください。
(*) 仕様により異なります。

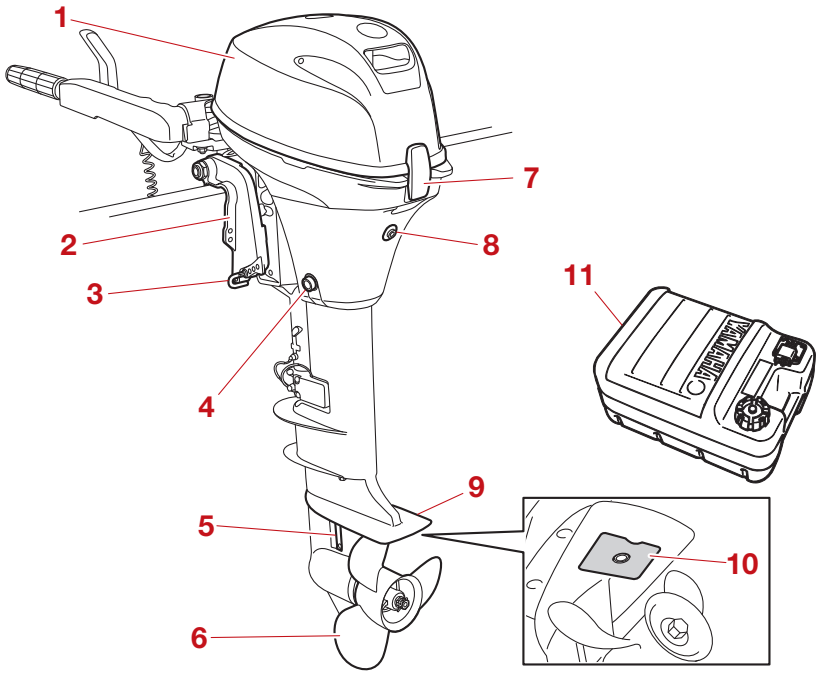
F9.9JMH, F9.9JWH



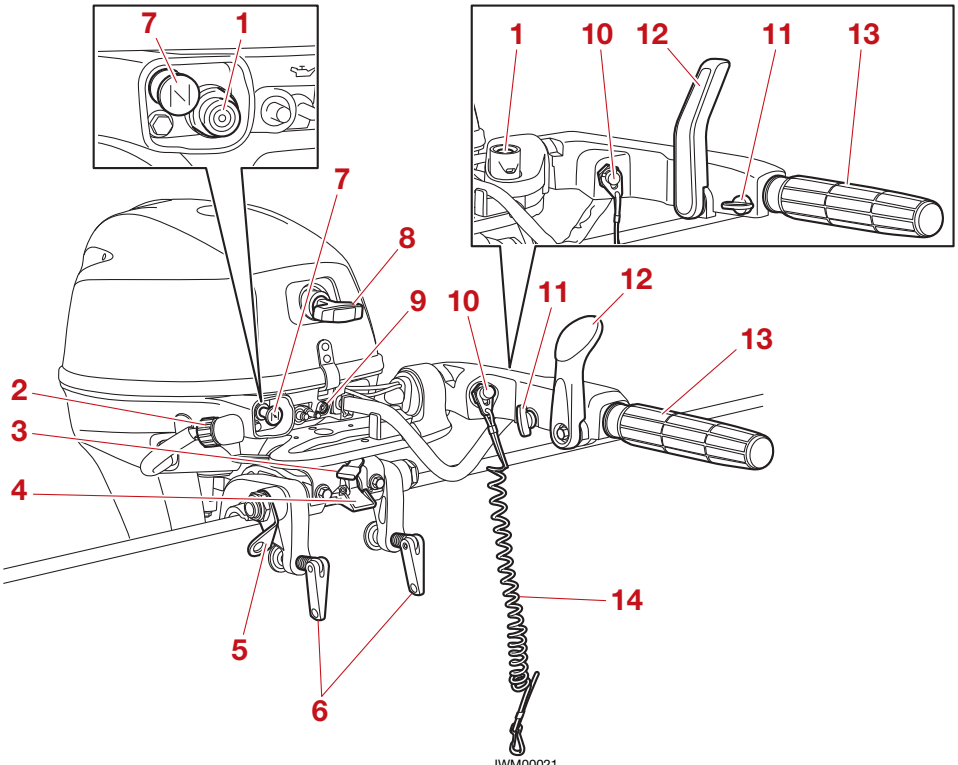
1. トップカウル
2. クランプブラケット
3. チルトピン
4. ドレンスクリュー
5. 冷却水取入口
6. プロペラ
7. カウルロックレバー
8. アイドルホール
9. キャビテーションプレート
10. アノード
11. 燃料タンク

構成部品

FT9.9LWH



1. トップカウル
2. クランプブラケット
3. チルトピン
4. ドレンスクリュー
5. 冷却水取入口
6. プロペラ *
7. カウルロックレバー
8. アイドルホール
9. キャビテーションプレート
10. アノード
11. 燃料タンク



JWM00021

1. エンジン始動ボタン *
2. 水洗装置
3. ステアリングフリクションアジャスター
4. チルトロックレバー
5. 係船ロープアタッチメント
6. クランプスクリュー
7. チョークノブ
8. マニュアルスターターハンドル
9. 警報灯
10. エンジン停止ボタン
11. スロットルフリクションアジャスター
12. ギヤシフトレバー
13. スロットルコントロールグリップ
14. エンジンシャットオフコード

⚠警 告

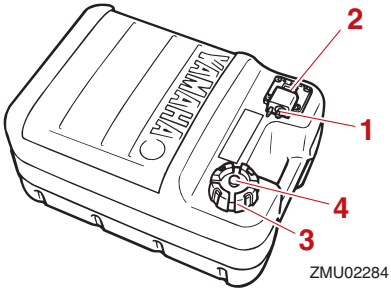
- **保管または係留時には、燃料タンクを空にして船から下ろしておいてください。**
- **使用後はエアベントスクリュを閉じてください。**
- **燃料を入れたまま陸上運搬しないでください。**

JMU25804

燃料タンク

ヤマハ船外機は、専用燃料タンクが用意されています。

構成部品



ZMU02284

1. 燃料ホースコネクター
2. 燃料計
3. 燃料タンクキャップ
4. エアベントスクリュ

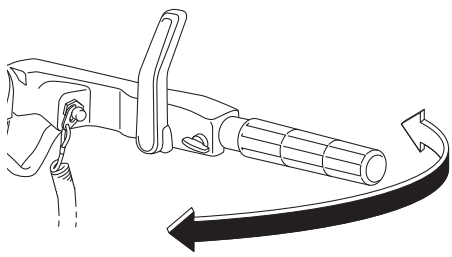
JMU25831
燃料ホースコネクター
燃料ホースをつないだり、外したりするためのものです。

JMU25842
燃料計
燃料タンクキャップ、または燃料ホースコネクターに装備されています。燃料タンク内のおよその燃料残量を示します。

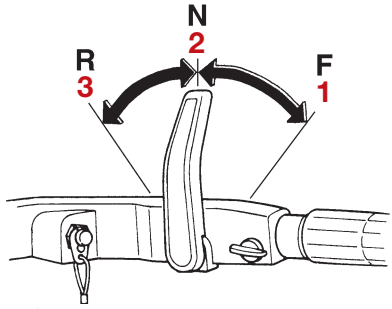
JMU25851
燃料タンクキャップ
燃料タンクの給油口のふたです。反時計方向に回すと緩みます。

JMU25861
エアベントスクリュ
燃料タンクキャップに付いています。反時計方向に回すと緩み、燃料タンク内の圧力が大気開放されます。

JMU25914
ティラーハンドル
舵取り操作は、ティラーハンドルを左右に動かして行います。

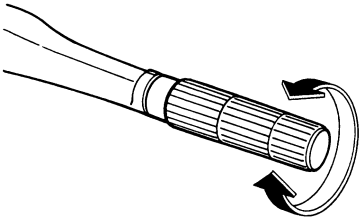

ZMU07800

JMU25925
ギヤシフトレバー
ギヤシフトレバーを前方（船首側）へ倒すと前進のギヤが入り、後方（船尾側）へ倒すと後進のギヤが入ります。



1. 前進 “**F**”
2. ニュートラル “**N**”
3. 後進 “**R**”

JMU25943
スロットルコントロールグリップ
ティラーハンドルの先端にあります。反時計方向に回せば加速し、時計方向に回せば減速します。

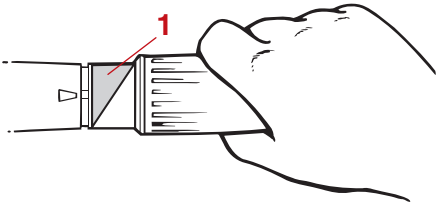


ZMU02378

JMU25963

スロットルインジケーター

スロットル開度の目安を表示します。



ZMU05338

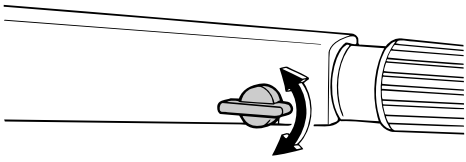
1. スロットルインジケーター

JMU25978

スロットルフリクションアジャスター

スロットルコントロールグリップ／リモコンレバーの動きの重さを調整するノブ／スクリュがティラーハンドル／リモートコントロールボックスに装備されています。操船者の好みに合わせて、調整ができます。

重さ（抵抗）を増やすには、時計方向に回します。減らすには、反時計方向に回します。**警告！ 調整スクリュー、または調整ノブを、締めすぎないようにしてください。リモコンレバー、またはスロットルコントロールグリップの動きが重すぎると、操船に支障をきたし事故につながる恐れがあります。**[JWM00033]



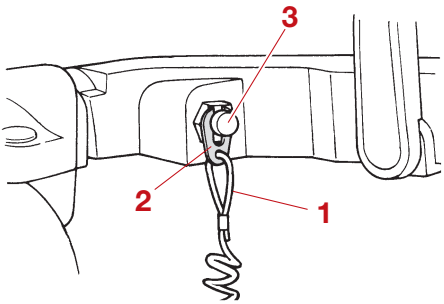
ZMU05342

一定のスピードを保ちたい場合は、アジャスターを締めてスロットルの設定を固定します。

JMU25996

緊急エンジン停止スイッチ

航走中に操船者が落水等で操船不能に陥ったとき、エンジンシャットオフコードが伸びてロックプレートが外れ、エンジンを急停止させ船の暴走を防ぐ仕組みになっています。エンジンシャットオフコードは確実に操船者の衣服または手、足に取り付けてください。**警告！ 操船中はエンジンシャットオフコードを衣服の丈夫な場所や手、足に確実に付けてください。衣服の緩みそうな場所にはエンジンシャットオフコードを付けないでください。また、操船に支障をきたすような場所への取り付けは行なわないでください。航走中はエンジンシャットオフコードが身体や周辺の機器等に引っ掛かり不意にロックプレートが外れないようにしてください。操船に支障をきたすばかりでなく、ロックプレートが外れることにより急減速され同乗者や荷物等が前方へ投げ出される恐れがあります。**[JWM00123]

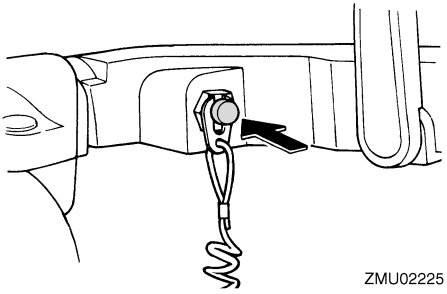


1. エンジンシャットオフコード
2. ロックプレート
3. 緊急エンジン停止スイッチ

JMU26004

エンジン停止ボタン

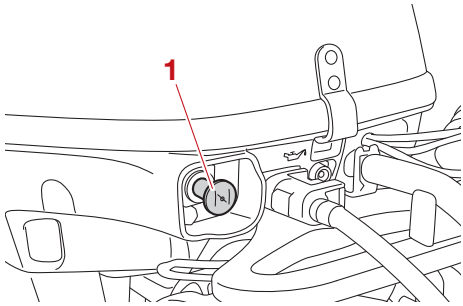
エンジン停止ボタンを押すと、エンジンが停止します。



JMU26015

チョークノブ（プルタイプ）

チョークノブを引くことにより、冷えているエンジンの始動に必要な濃い混合気が供給されます。

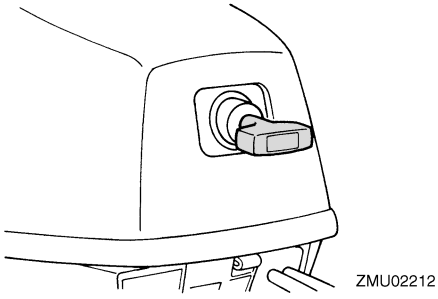


1. チョークノブ

JMU26075

マニュアルスターターハンドル

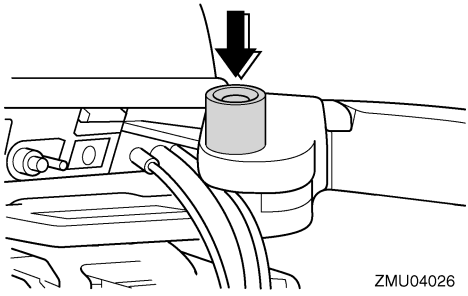
マニュアルスターターハンドルは、エンジンをクランキングさせ始動するときに使います。

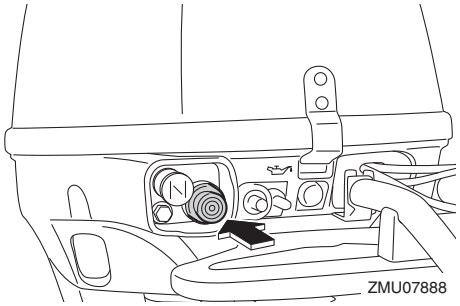


JMU26083

エンジン始動ボタン

黒いボタンを押している間、スターターモーターが回りエンジンを始動させます。





JMU31433

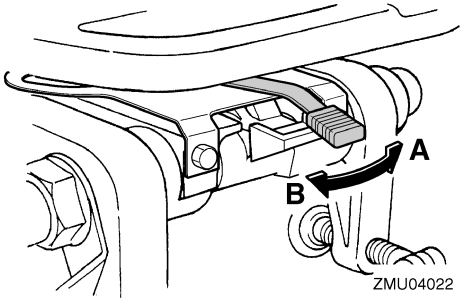
ステアリングフリクションアジャスター

ステアリングの動きの抵抗を調整するレバーがブラケットに付いています。操船者の好みに合わせて調整が出来ます。
調整レバーを左舷側 “A” へ回すと、抵抗が増え重たくなります。
右舷側 “B” へ回すと軽くなります。

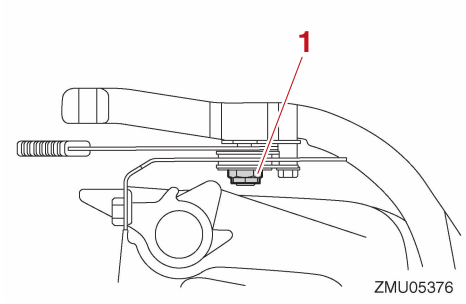
JWM00041

⚠警 告

調整レバーまたは調整スクリューを締めすぎないようにしてください。ステアリング操作の抵抗が大きすぎると、操船に支障をきたし事故につながる恐れがあります。



調整レバーを左舷側“A” に回しても抵抗が増えない場合は、ナットを規定トルクで締め付けます。



1. ナット

規定トルク；
8 N·m

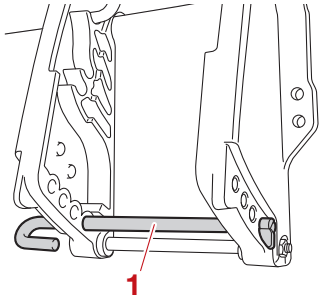
要　点：

- 調整レバーを “A” の位置にしたときに、ステアリングの動きを固定出来ます。
- 調整レバーを右舷側 “B” へ回したときに、ステアリングの動きがスムーズであることを確認してください。
- ステアリングフリクションの摩擦部にグリス等の油脂類を塗らないでください。

JMU26263

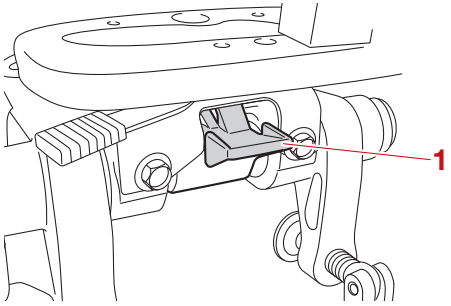
チルトピン

チルトピンの位置を変えることで、船外機をいっぱいまで下げた位置が決まります。



1. チルトピン

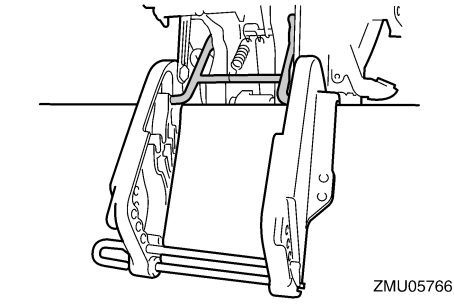
JMU30531
チルトロック機構
チルトロック機構は、後進時にプロペラのはね上がりを防止するためのものです。



1. チルトロックレバー

チルトロックレバーがロックの位置ではロック状態、解除の位置では解除となります。

JMU26334
チルトサポートバー
船外機をチルトアップした状態で保持するために、チルトサポートバーを使用します。



JCM01661
注 意

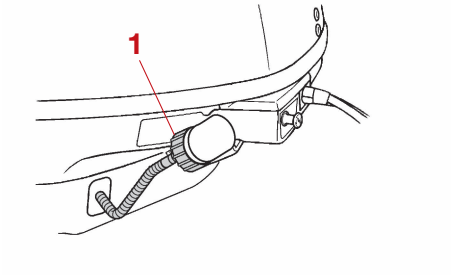
ボートを牽引しているときは、チルトサポートバーを使用しないでください。揺られてチルトサポートバーが外れ、船外機が勢いよく降下してくることがあります。船外機を通常の航走状態と同じ姿勢で運搬できないときは、更なる保持道具を使ってチルトアップした状態で船外機を確実に保持できるようにしてください。

JMU39264
カウルロックレバー
カウルロックレバーは、トップカウルを固定するためのレバーです。



1. カウルロックレバー

JMU26464
水洗装置
水洗装置は、水道ホースと水道水を使ってエンジンの冷却経路を洗浄するときに使用します。



1. 水洗装置

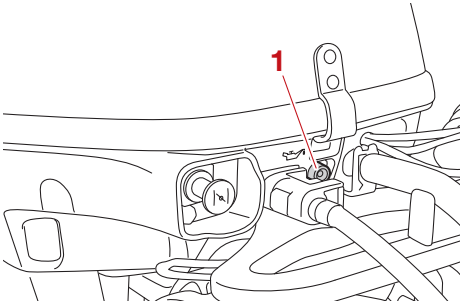
要 点：

使用方法について53ページを参照ください。

JMU26305

警報灯

エンジンに何らかの異常が生じたときには、警報灯が赤色点灯します。詳細は、25 ページを参照ください。



1. 警報灯

JMU36016

警報灯

JMU36026

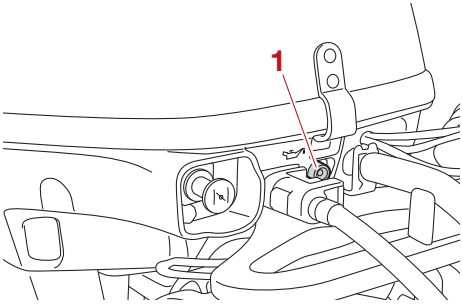
油圧低下警報表示

油圧が低下したときに警報表示が点灯を始めます。詳細は、25 ページを参照ください。

JCM00024

注 意

- **オイルを入れずにエンジンを運転しないでください。重大な損傷を招く恐れがあります。**
- **油圧低下警報はオイル量を示すものではありません。**
- **オイル量の点検は、オイルレベルゲージにより行なって下さい。（31 ページを参照ください。）**



1. 油圧低下警報表示

JMU26806

警報装置

JCM00093

注 意

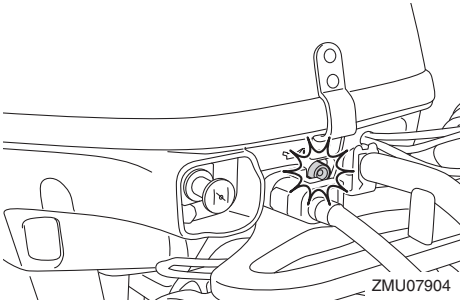
警報機構が作動した場合は、エンジンを停止してください。原因究明とその処置が出来ない場合は、ヤマハ取扱店で点検を受けてください。

JMU26869

油圧低下警報

この船外機には油圧の低下を知らせる警報装置が装備されています。エンジンの油圧が規定値より低下したときには、次のような警報を発します。

- エンジンの回転数が自動的に2000～3500回転程度まで低下します。
- 油圧低下警報灯が点灯または点滅します。



- ブザーが鳴ります。(装備されている場合)

警報装置が作動した場合、エンジンを停止しエンジンオイル量を点検します。必要な場合は補充します。エンジンオイル量が適量にもかかわらず警報装置が作動した場合には、ヤマハ取扱店で点検を受けてください。

JMU26903

船外機の取り付け

要　点：

船外機と船体の組み合わせは多種多様なため、それぞれの仕様によって取り付け方法は必ずしも同一ではありません。この章での説明は標準的な適用例を取り上げています。

JWM01591

⚠警 告

- **船体の最大搭載馬力を越える船外機を搭載すると、ボートの安定性を大きく損ないます。ボートの最大搭載馬力より大きい船外機を取り付けないでください。ボートの最大搭載馬力が不明は場合は、ボートメーカーにお問い合わせください。**
- **船外機が正しく取り付けられていない場合、操船がしにくくなったり、制御不能や火災など危険な状況を引き起こしかねません。最初に船外機を取り付けて以降、船外機をはずすことのない場合は、ヤマハ販売店で点検を受けてください。**

JMU34802

ボートトランサムへの取り付け

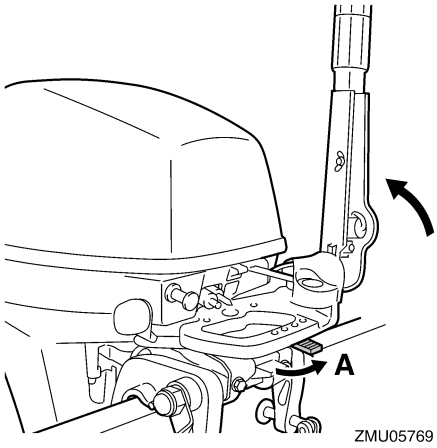
JCM01681

注 意

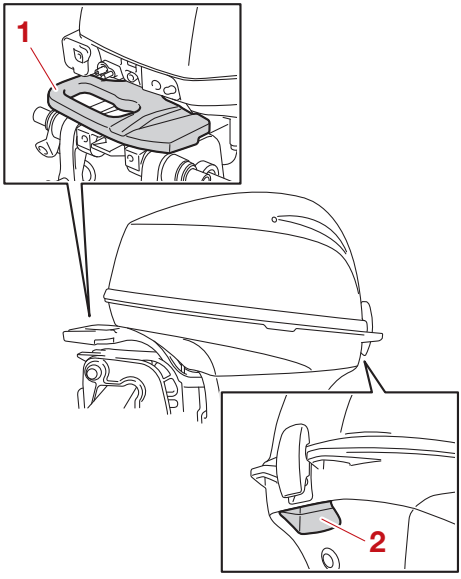
船外機の取り付け、取り外しを行なうときは、トップカウルを持って行なわないでください。トップカウルが外れ、船外機が落下する恐れがあります。

(1) 船外機の取り付け作業は必ず陸上で行ってください。船体が水上にある場合は、船体を陸上に引き揚げます。

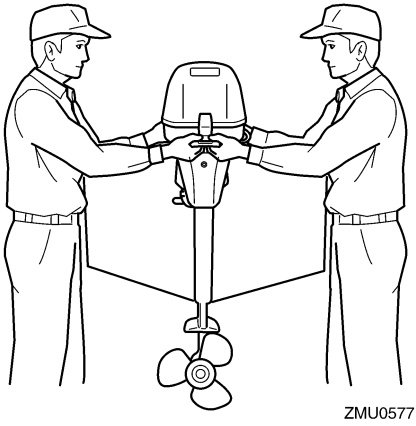
(2) ティラーハンドル仕様の場合は、調整レバーを “A” の位置にして、ステアリングを締めます。さらにステアリングブラケットをつかみやすくするために、ティラーハンドルを垂直に持ち上げます。



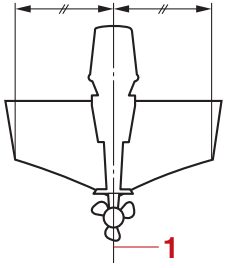
(3) イラストで示されたハンドグリップとステアリングブラケット部分をつかみ、2 人で持ち上げます。



1. ステアリングブラケット
2. ハンドグリップ


ZMU05771

(4) 船外機はボートトランサムの中央（船体中心）に取り付けます。その時に操船に支障をきたさないよう、ボートの安定性が良いことを確かめます。ボートの仕様等により取り付けが困難な場合はヤマハ取扱店にご相談ください。

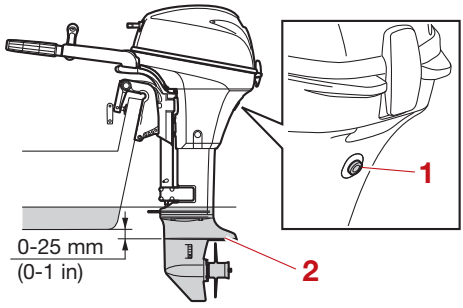


1. センターライン（キールライン）

JMU26927

取り付け高さ

効率のよい航走をするためには、船外機と船体の水の抵抗を出来る限り減らす必要があります。船外機の取り付け高さは水の抵抗に大きく影響を与えます。取り付け高さが高すぎる場合は、航走中にキャビテーションをおこし推進力が低下します。同時にエンジン回転数が異常に高くなりオーバーヒート等の原因となる恐れがあります。取り付け高さが低すぎる場合は、水の抵抗が増え推進効率が低下します。一般的には船外機キャビテーションプレートの位置が、船底（キール）から 25mm 下方の間に収まるように取り付けます。



1. アイドルホール
2. キャビテーションプレート

JCM01635

注 意

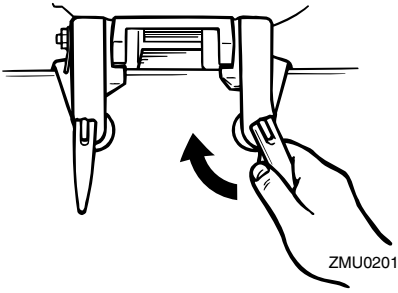
- **ボートが最大積載状態で停止している時でも、船外機のアイドルホールが水面から十分に高く、エンジンに水が入らない位置であることを確認してください。**
- **エンジンの高さが不適当であるか、水流に対する障害（ボートの設計や状態、あるいはトランサムラダーや水深測定器などの付属物）が存在すると、ボートが航行している間、水しぶきが発生することがあります。水しぶきがある状態でエンジンを連続運転すると、トップカウルのインテークグリルから船外機内に水が入り、エンジンに深刻な損傷を与える恐れがあります。水しぶきの原因を解消し航行してください。**

要 点：

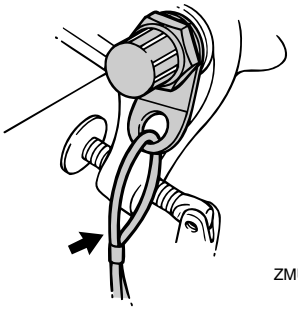
- 船外機と船体仕様の組み合わせによっては、取り付け高さは一律ではありません。試走して最良の取り付け高さを決めてください。
- トリム角度については 43 ページを参照ください。

JMU26974
船外機の取り付け

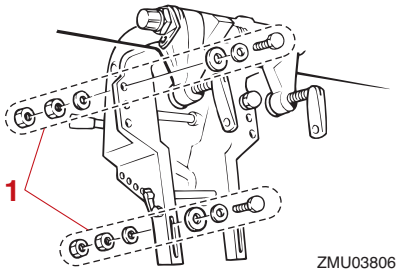
(1) 船外機をボートトランサムの中央に持っていきます。クランプスクリューを確実に締め込みます。運転中に振動でクランプスクリューが緩まないように時々、締まり具合を点検します。**警告！ クランプスクリューが緩むと、船外機がボートトランサム上を移動したり、脱落したりします。その結果、操船に支障をきたし事故の原因となる恐れがあります。クランプスクリューは、確実に締め付けてください。**[JWM00643]


ZMU02012

(2) 船外機が脱落したときのためにロープ等を準備し、一方の端をエンジン側の係船ロープアタッチメントに結び、他方を船体の丈夫な場所に結びます。そうすることによって何らかの原因で船外機がボートトランサムから脱落した場合、回収が可能です。


ZMU02013

(3) 専用取り付け部品（ボルト等）の同梱されている機種は、ヤマハ取扱店にて専用取り付け部品を使ってボートトランサムに固定されることをお奨めいたします。**警告！ 専用取り付け部品以外のご使用は、おやめください。**[JWM00652]



ZMU03806

1. ボルト

JMU36382
初めてお使いになる前に

JMU36393
エンジンオイルの補給
船外機は、エンジンオイルを入れずに出荷されています。販売店がオイルを補充しなかった場合は、エンジン始動前にご自身でオイルを補充してください。***注意：*重大なエンジンの損傷を防ぐために、最初にエンジンを始動する前にオイルが補充されているか点検してください。**[JCM01782]
出荷した船外機には次のようなタグが取り付けられています。購入後初めてエンジンオイルを補充した後、このタグを取り外してください。オイル量のチェックについては 31 ページを参照してください。



JMU30175
慣らし運転
新しいエンジンは、摺動部品の表面のなじみを出すために、慣らし運転の期間が必要です。慣らし運転を正しく行なうことにより初期性能をいかんなく発揮し、エンジンの構成部品の寿命も延びます。***注意：*慣らし運転を怠ると、構成部品の寿命が減るばかりでなくエンジンに損傷を与える恐れがあります。**[JCM00802]

JMU27086
慣らし運転の手順
新しい船外機は、摺動部品が均等に摩耗するように、10 時間程度の「慣らし運転」を行う必要があります。

要　点：

エンジンを水中で、以下の負荷で（プロペラを取り付けた状態）運転してください。10 時間の慣らし運転の時は、長時間のアイドリング運転を避け、また高い波や船舶が密集した水域を避けるようにしてください。

(1) 最初の 1 時間：
エンジンを最大 2000r/min まで回転を上げながら運転するか、またはスロットルの開度を約半分で運転します。

(2) 次の 1 時間：
ボートを滑走させるために必要な速度までエンジンの回転を上げ（但しスロットルを全開にした操作は避けてください）、次に滑走状態を維持しながらスロットルを戻します。

(3) 最後の 8 時間：
エンジンを任意の速度で回転させます。しかし、一度に 5 分間以上スロットルを全開の状態で走らせないようにしてください。

(4) 10 時間以降：
通常にご使用できます。

JMU36402
ボートをよく知ろう
ボートにより扱い方は異なります。ボートを異なる条件、トリム角度で操縦することを練習している間は、注意して運転してください。43 ページを参照ください。

JMU36414

始動前点検

JWM01922

⚠警 告

始動前点検中に異常が見つかったときには、修理や整備を済ませてから使用してください。事故につながる恐れがあります。

JCM00121

注 意

冷却水を供給せずにエンジンを運転しないでください。オーバーヒートしてエンジンが損傷します。

JMU36561

燃料残量

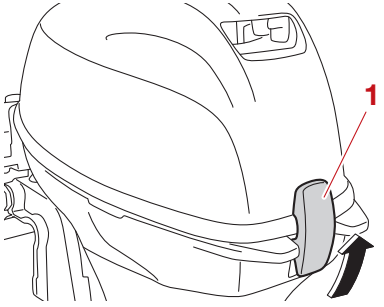
航行に必要な燃料を十分積んでいることを点検してください。燃料消費の良い目安は、三分の一で目的地に達し、帰路用に三分の一を使用し、残る三分の一は非常用予備としておくことです。トレーラまたは水上で水平に保持し燃料残量を点検してください。燃料の補給については、32 ページを参照してください。

JMU39841

トップカウルの取り外し

船外機からトップカウルを取り外して、以下の点検を行ってください。

トップカウルを取り外すには、カウルロックレバーを引き上げてロックを解除し、トップカウルを持ち上げます。



1. カウルロックレバー

JMU36443

燃料系統

JWM00061

⚠警 告

ガソリンは、高い引火性と爆発性があります。タバコ等の火気や他の火種になるようなものを近づけないでください。

JWM00911

⚠警 告

- **燃料漏れは火災や爆発の原因となりますので、常に点検をしてください。**
- **燃料漏れが見つかった場合は、直ちにヤマハ取扱店で修理を行ってください。**

JMU36453

燃料漏れの点検

- ボート内の燃料漏れを点検してください。
- 燃料系統からの燃料漏れを点検してください。
- 燃料タンク及び燃料ホースを点検して、ひび割れ、膨れ、その他の損傷の有無を点検してください。

JMU36893

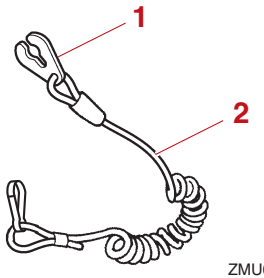
コントロールシステムの点検

- ティラーハンドルを左右いっぱい動かして、スムーズに動くことを確認してください。
- スロットルコントロールグリップを全閉から全開に回し、動きがスムーズであることを確認し、スロットルコントロールグリップが完全に全閉位置に戻ることを点検してください。
- スロットルケーブルとシフトケーブルの接続の緩みや損傷がないか点検してください。

JMU36484

エンジンシャットオフコード（ランヤード）

エンジンシャットオフコードやロックプレートに切れ目や割れ、摩耗などの損傷がないか点検します。



ZMU06873

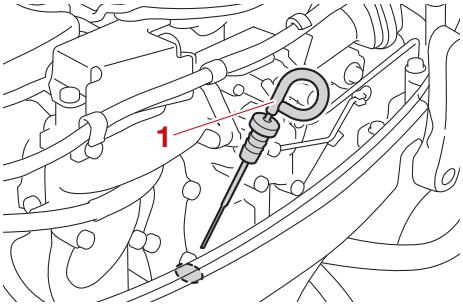
1. ロックプレート
2. エンジンシャットオフコード

JMU27168

エンジンオイル

(1) 船外機を垂直な状態にします。***注意：*船外機が垂直な状態（チルトアップしていない）でなければ、オイルレベルを正しく計ることはできません。**[JCM01791]

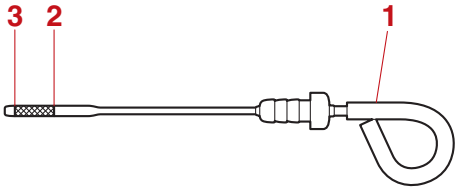
(2) オイルレベルゲージを引き抜き、付着しているオイルを拭き取ります。



1. オイルレベルゲージ

(3) オイルレベルゲージを挿入して、引き抜きます。オイルレベルゲージはかならず完全にオイルレベルゲージガイドに挿入してください。不完全な状態ではオイルレベルは正確に計測できません。

(4) オイルレベルは上限、下限のマークの間が適正です。オイルが下限マークより低い場合は給油を、上限マークより上の場合は所定のレベルまでオイルを抜きます。



1. オイルレベルゲージ
2. 上限マーク
3. 下限マーク

JMU40412

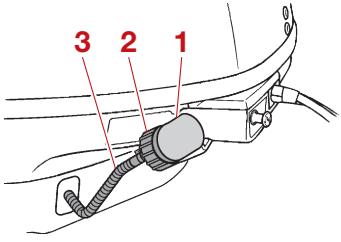
船外機本体

- エンジン取り付けボルトの緩みや、取り付けの状態を点検してください。
- プロペラの損傷を点検してください。
- エンジンオイル漏れを点検してください。

JMU36494

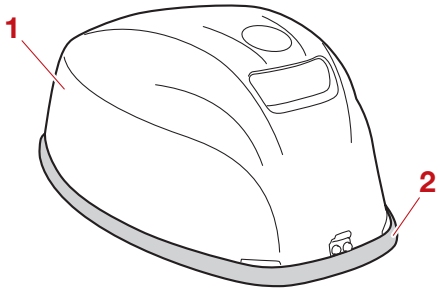
水洗装置

水洗装置の給水ホースコネクターをボトムカウル上の固定場所へ確実に取り付けます。***注意：*水洗装置の接続が確実にできていることを確認してください。冷却水が水漏れを起こし、エンジンが稼動中にオーバーヒートを起こす可能性があります。**[JCM01802]



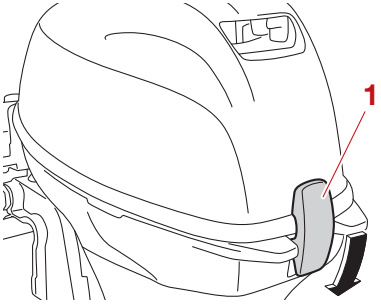
1. 固定場所
2. 給水ホースコネクター
3. 水洗装置

JMU36956
トップカウルの取り付け
(1) カウルロックレバーのロックが解除されていることを確認してください。
(2) ラバーシールがトップカウルの全周に取り付けられていることを確認してください。



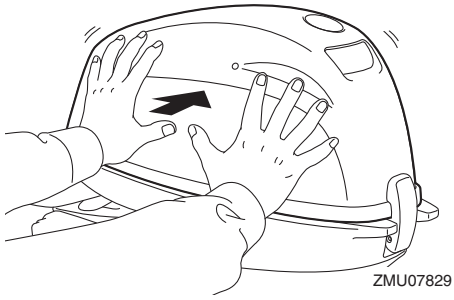
1. トップカウル
2. ラバーシール

(3) トップカウルをボトムカウリングの上に置いてください。
(4) ラバーシールがトップカウルとボトムカウリングの合い面に正しく取り付けられていることを確認してください。
(5) 図のようにレバーを動かしてトップカウルをロックしてください。***注意：*トップカウルを正しく取り付けないと、水しぶきによるエンジン損傷や高速航行時にトップカウルが吹き飛ぶ恐れがあります。**[JCM01992]



1. カウルロックレバー

取付け後、トップカウルを両手で押して確実に取り付けられているか点検してください。トップカウルが緩んでいる場合は、ヤマハ販売店に修理を依頼してください。


ZMU07829

JMU36585
バッテリー
バッテリーの充電状態を点検します。ヤマハデジタルスピードメーターが装備されている場合、ボルトメーターと低電圧警告機能でバッテリーの充電状態を確認できます。良好な状態のバッテリーは、少なくても 12 ボルトの電圧になります。バッテリーターミナルに汚れがなく、接続部の緩み、絶縁カバーがかかっていることを点検します。汚れがないバッテリーターミナルを正しく接続してください。正しく接続されていないとバッテリーはエンジンを始動できません。
バッテリーの充電が必要な場合、ヤマハ取扱店に相談するかバッテリーの取扱説明書を参照してください。

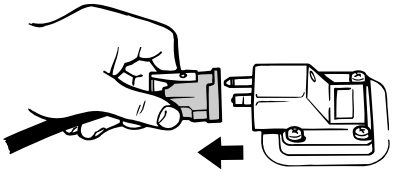
JMU2743A
燃料タンクへの給油

JWM01831
⚠警 告

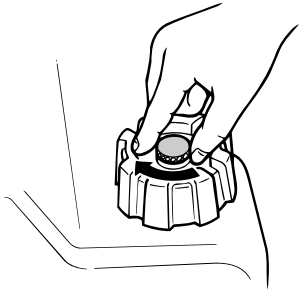
- **ガソリンおよびそれが気化した蒸気は極めて引火性が高く、爆発する恐れがあります。火災や爆発の危険を回避するために、常にこの手順に従って給油してください。**
- **ガソリンは毒性があり、傷害または死亡に至る恐れがあります。取り扱いには十分に注意を払ってください。口でガソリンを吸い上げることは決してしないでください。**

万一、ガソリンを飲み込んだり、または多量の揮発蒸気を吸ったり、または目に入ったりした場合、ただちに医師の診断を受けてください。万一、ガソリンが皮膚にこぼれた場合、石鹸と水で洗ってください。衣類に付着した場合は、着替えてください。

(1) エンジンが停止していることを確認します。
(2) 燃料タンク側の燃料ホースコネクターを外し、エアベントスクリュを閉めます。



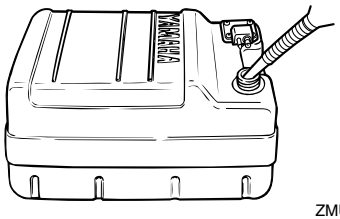
ZMU06598



ZMU02301

(3) 燃料タンクをボートから下ろします。
(4) 換気の良い戸外で確実に係留、またはトレーラ上に搭載した状態にあることを確認してください。
(5) タバコを吸わないでください。また、スパーク（火花）、火炎、静電気その他の発火源から離してください。
(6) 携帯用のガソリン容器を使用して燃料の貯蔵と給油をおこなう場合は、消防法に適合したガソリン容器のみを使用してください。
(7) 給油時は、静電気の火花を防ぐために、燃料パイプのノズル部分を給油口またはファンネル（漏斗）部に軽く触れさせてください。
(8) 燃料タンクに燃料を給油します。**警告！ 燃料を入れすぎないようにしてください。入れすぎた場合、温度の上昇によって、燃料が膨張し溢れることがあります。**[JWM02611]

燃料タンクの容量；
24 L



ZMU02834

(9) 燃料タンクキャップを確実に閉めます。
(10) こぼれたガソリンはただちに乾いたウエスで拭き取ってください。ガソリンを拭いたウエスは、正しい方法で廃棄してください。

JMU27453

エンジン操作

JWM00421

⚠警 告

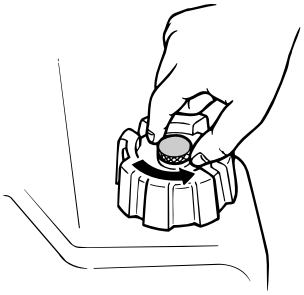
- **エンジン始動前にはボートを確実に係留し、付近に遊泳者がいないことや、障害物等がないことを確認してください。**

- **エアベントスクリュを緩めるときは、燃料がにじみ出たり燃料の揮発蒸気が漏れることがあります。火災や爆発の原因となりますので、タバコ等の火気は近づけないでください。**
- **排気ガスは一酸化炭素を含み中毒をおこす恐れがあります。ボートハウスなどの閉め切った場所ではエンジンを始動させないでください。**

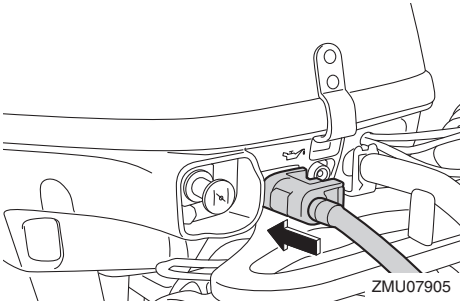
JMU2746B

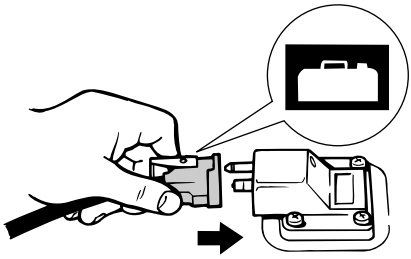
燃料供給（燃料タンク別体仕様）

(1) 燃料タンクにエアベントスクリュが装備されているものは、2 ～ 3 回転緩めます。



(2) 燃料ホースコネクターが装備されている機種は、燃料ホースコネクターの方向を合わせて、つまみながら燃料ホースを確実に接続します。艇体に燃料コックが装備されているものはコックを開けます。

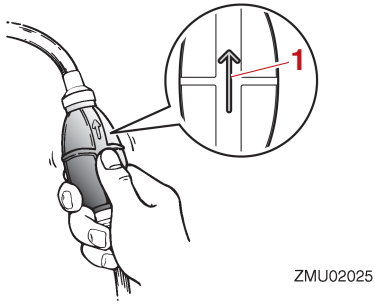




要　点：

こぼれたガソリンはただちに乾いたウエスで拭き取ってください。ガソリンを拭いたウエスは、正しい方法で廃棄してください。

(3) プライミングポンプの矢印を上に向け、固くなるまで握ったり離したりを繰り返します。燃料が適切に供給出来ない為、操作中は燃料タンクを水平にしてください。



1. 矢印

JMU27496

エンジン始動

JWM01601

⚠警　告

エンジンを始動する前に、ボートがしっかり係留されていること、各作動部分がスムーズに機能することを確認してください。また、付近に遊泳者がいないことを確認してください。

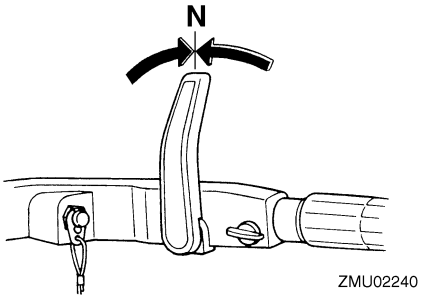
JMU34815
手動始動の手順（ティラーハンドル仕様）
JWM01842

⚠警 告

- **エンジンシャットオフコードを付けないと操船者が船外に投げ出されたときにボートが暴走する恐れがあります。操船中はエンジンシャットオフコードを衣服の丈夫な場所や手、足に確実に付けてください。衣服の緩みそうな場所にはエンジンシャットオフコードを付けないでください。また、操船に支障をきたすような場所への取り付けは行なわないでください。**
- **航走中はエンジンシャットオフコードが身体や周辺の機器等に引っ掛かり不意にロックプレートが外れないようにしてください。操船に支障をきたすばかりでなく、ロックプレートが外れることにより急減速され同乗者や荷物等が前方へ投げ出される恐れがあります。**

通常の始動手順

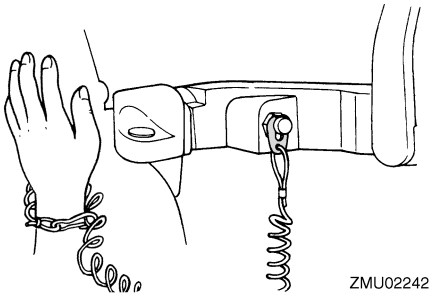
(1) ギヤシフトレバーを中立（ニュートラル）にします。



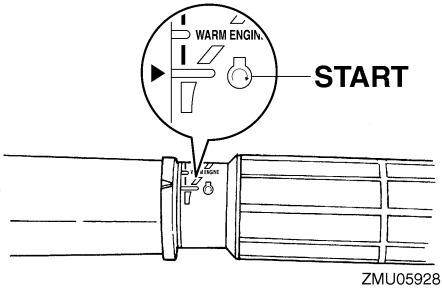
要　点：

始動安全装置が作動するため、中立（ニュートラル）でなければエンジンの始動は出来ません。

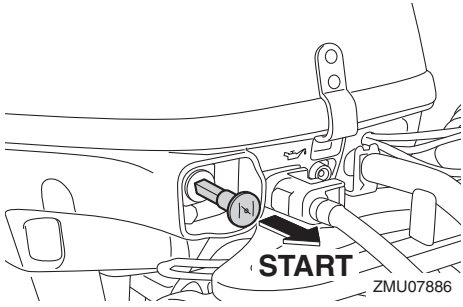
(2) エンジンシャットオフコードを衣服の丈夫な場所や手、足に確実に付け、ロックプレートを緊急エンジン停止スイッチに差し込みます。



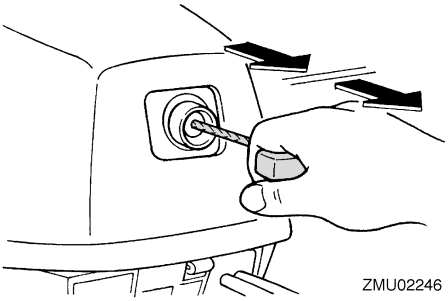
(3) スロットルコントロールグリップを始動位置 “START” にします。



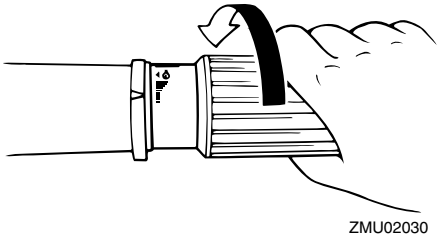
(4) チョークノブをいっぱいまで引きます。



(5) 抵抗を感じるまで、マニュアルスターターハンドルをゆっくりと引きます。そこから、真後ろに一気に強く引いてエンジンを始動させます。


ZMU02246

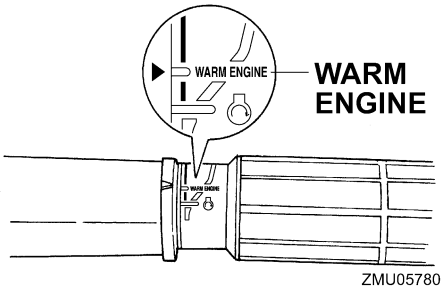
(6) エンジン始動後は、マニュアルスターターハンドルをゆっくりと元の場所に戻します。
(7) スロットルコントロールグリップを全閉の位置に戻します。


ZMU02030

(8) 徐々にチョークノブを元の位置まで戻します。

要　点：

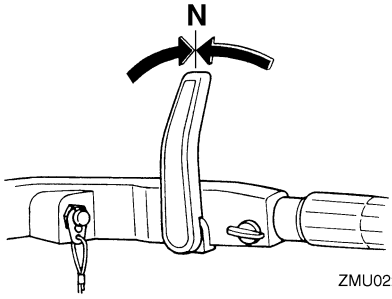
- チョークノブを引いたままの状態にしておくと、エンジンが停止してしまいます。
- 冬期など、外気温度の低い状態でエンジンが冷えているときは、暖機運転を行ないます。暖機運転については、40 ページを参照ください。
- エンジン始動前にむやみにスロットルを開閉すると、始動が難しくなることがあるため行わないで下さい。始動が難しくなってしまった場合は、スロットルグリップを **“WARM ENGINE”** の位置にして、始動の手順を再度行ってください。



ZMU05780

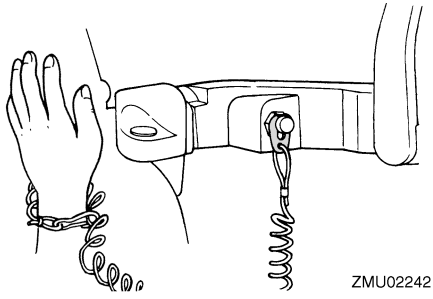
暖機再始動の手順

(1) 通常の始動手順と同様に、ギヤシフトレバーを中立（ニュートラル）にします。

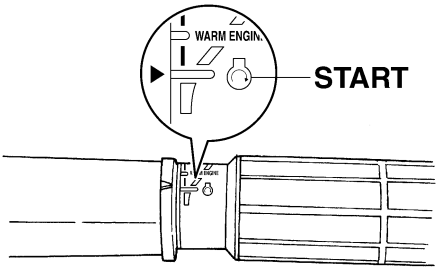


ZMU02240

(2) エンジンシャットオフコードを衣服の丈夫な場所や手、足に確実に付け、ロックプレートを緊急エンジン停止スイッチに差し込みます。

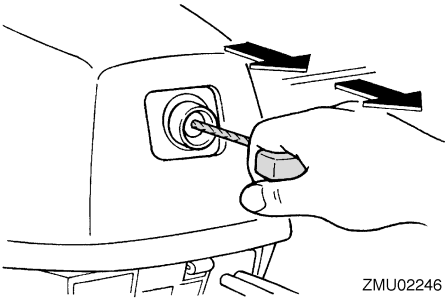

ZMU02242

(3) スロットルコントロールグリップを始動位置 **“START”** にします。



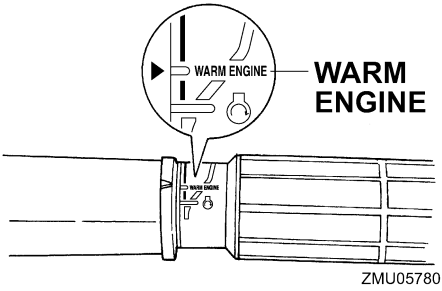
ZMU05928

(4) 抵抗を感じるまで、マニュアルスターターハンドルをゆっくりと引きます。そこから、真後ろに一気に強く引いてエンジンを始動させます。


ZMU02246

要　点：

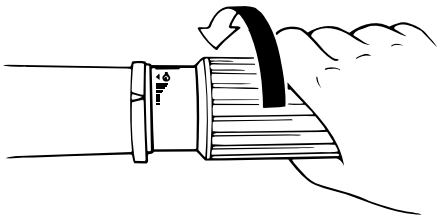
- エンジンが始動しない場合は、スロットルコントロールグリップを“**WARM ENGINE**”の位置にして行ってください。



ZMU05780

- 暖機再始動時には、チョークノブを引く必要はありません。

(5) エンジン始動後は、マニュアルスターターハンドルをゆっくりと元の場所に戻します。
(6) スロットルコントロールグリップを全閉の位置に戻します。


ZMU02030

JMU34926

電動始動の手順（ティラーハンドル仕様）

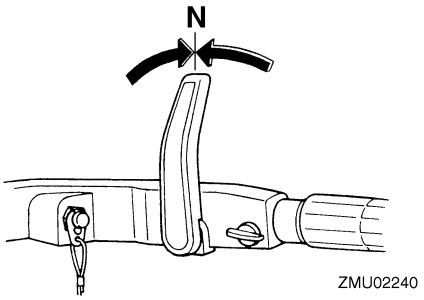
JWM01842

⚠警　告

- **エンジンシャットオフコードを付けないと操船者が船外に投げ出されたときにボートが暴走する恐れがあります。操船中はエンジンシャットオフコードを衣服の丈夫な場所や手、足に確実に付けてください。衣服の緩みそうな場所にはエンジンシャットオフコードを付けないでください。また、操船に支障をきたすような場所への取り付けは行なわないでください。**
- **航走中はエンジンシャットオフコードが身体や周辺の機器等に引っ掛かり不意にロックプレートが外れないようにしてください。操船に支障をきたすばかりでなく、ロックプレートが外れることにより急減速され同乗者や荷物等が前方へ投げ出される恐れがあります。**

通常の始動手順

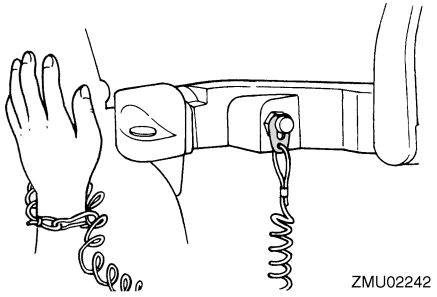
(1) ギヤシフトレバーを中立（ニュートラル）にします。



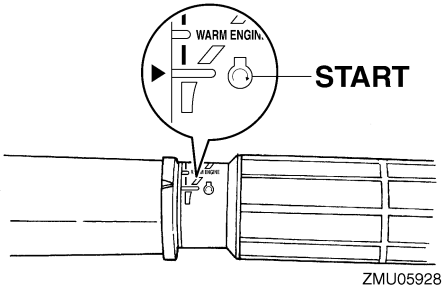
要　点：

始動安全装置が作動するため、中立（ニュートラル）でなければエンジンの始動は出来ません。

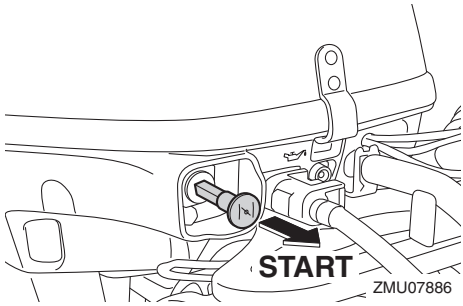
(2) エンジンシャットオフコードを衣服の丈夫な場所や手、足に確実に付け、ロックプレートを緊急エンジン停止スイッチに差し込みます。



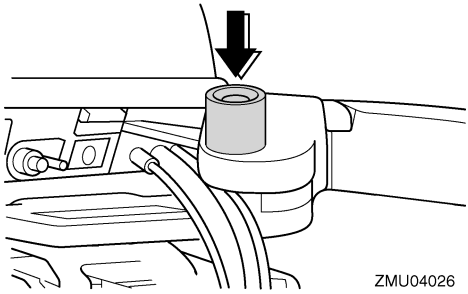
(3) スロットルコントロールグリップを始動位置 **"START"** にします。

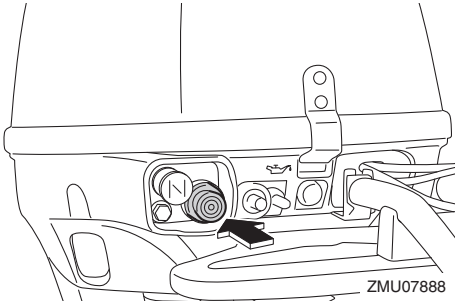


(4) チョークノブをいっぱいまで引きます。



(5) エンジン始動ボタンを押してエンジンを始動させます。

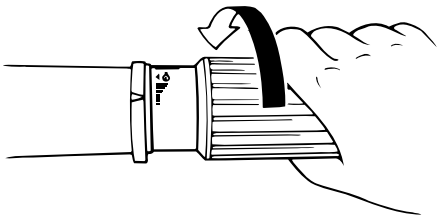




(6) エンジン始動後は、ただちにボタンを離します。***注意：*スターターモーターは、連続して 5 秒以上回さないでください。スターターモーターを5秒以上連続して回すと、バッテリーが上がりエンジンが始動できなくなる恐れがあります。5 秒以内でエンジンが始動しない時は、10 秒**

待ってからもう一度行なってください。エンジン運転中は、エンジン始動ボタンを押さないでください。[JCM00162]

(7) スロットルコントロールグリップを全閉の位置まで戻します。


ZMU02030

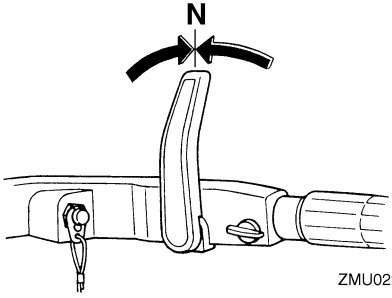
(8) 徐々にチョークノブをもとの位置まで戻します。

要　点：

- チョークノブを引いたままの状態にしておくと、エンジンが停止してしまいます。
- 冬期など、外気温度の低い状態でエンジンが冷えているときは、暖機運転を行ないます。暖機運転については、40 ページを参照ください。

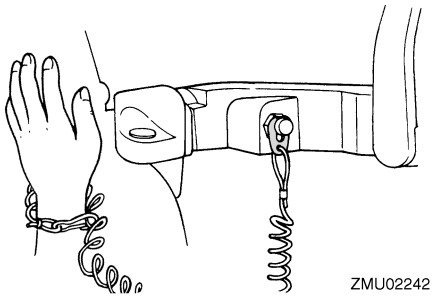
暖機再始動の手順

(1) 通常の始動手順と同様に、ギヤシフトレバーを中立（ニュートラル）にします。

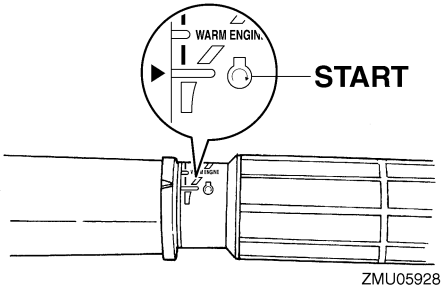


ZMU02240

(2) エンジンシャットオフコードを衣服の丈夫な場所や手、足に確実に付け、ロックプレートを緊急エンジン停止スイッチに差し込みます。

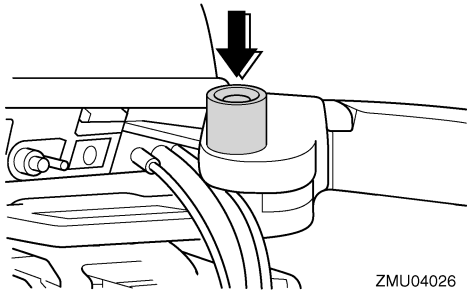

ZMU02242

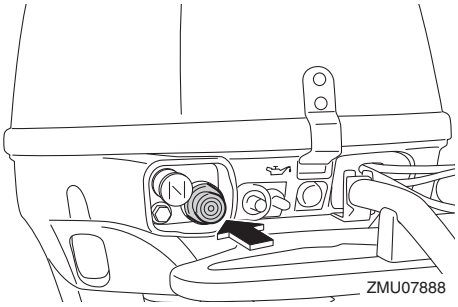
(3) スロットルコントロールグリップを始動位置 **“START”** にします。



ZMU05928

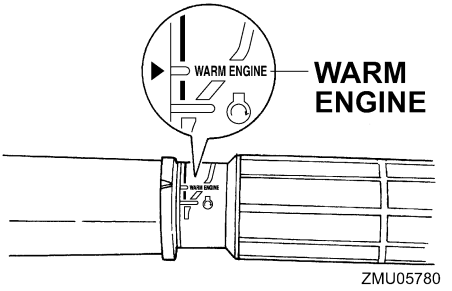
(4) エンジン始動ボタンを押してエンジンを始動させます。


ZMU04026


ZMU07888

要　点：

- エンジンが始動しない場合は、スロットルコントロールグリップを“WARM ENGINE”の位置にして行ってください。

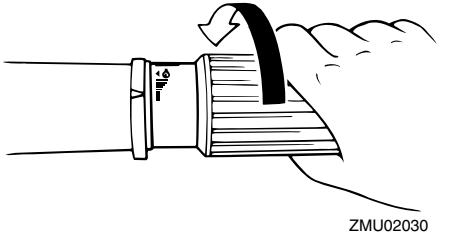


ZMU05780

- 暖機再始動時には、チョークノブを引く必要はありません。

(5) エンジン始動後は、ただちにボタンを離します。

(6) スロットルコントロールグリップを全閉の位置に戻します。


ZMU02030

JMU36511

エンジン始動後の点検

JMU36524

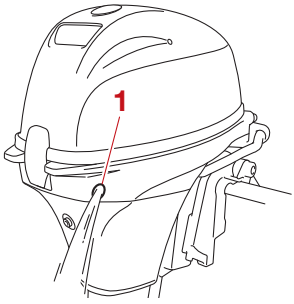
冷却水

冷却水点検孔から勢いよく水が出ていることを点検してください。水が常時流れているということは、ウォーターポンプが冷却経路を通じて水を送っていることを意味します。冷却経路が凍結している場合は、冷却水点検孔から水が流れ出るまでに少し時間がかかることがあります。

JCM01811

注 意

エンジンが運転中にもかかわらず冷却水点検孔から水が一定して出ない場合は、オーバーヒートや重大な損傷が発生する恐れがあります。エンジンを停止して、冷却水取入口と冷却水点検孔の詰まりを点検してください。問題点が特定できず解決できない場合はヤマハ取扱店で点検を受けてください。



1. 冷却水点検孔

JMU27671

暖機運転

JMU27718

手動／電動始動仕様

(1) エンジン始動後は3分間以上アイドリング（無負荷最低速運転）状態で運転してエンジンを暖めてください。***注意：*暖機運転を怠るとエンジンの寿命が短くなることが考えられます。**[JCM04550]

(2) 油圧低下警報灯（オイルランプ）が消灯していることを確認してください。***注意：*エンジン始動後、油圧低下警報灯が点滅した場合はエンジンを停止します。エンジンを停止しなかった場合、エンジンが損傷を受ける可能性があります。オイルレベルを点検し、必要に応じて補充します。油圧低下警報灯が点滅した原因を解決できない場合はヤマハ取扱店で点検を受けてください。**[JCM01832]

JMU36532

暖機運転後の点検

JMU36542

シフト操作

ボートを確実に係留し、スロットルを使用しない状態でシフトが前進、後進、中立（ニュートラル）にスムーズに変わることを点検してください。

JMU36973

エンジン停止スイッチ

以下の手順に従って、エンジン停止ボタンと緊急エンジン停止スイッチが正常に作動するか点検してください。

- エンジン停止ボタンを押すと、エンジンが停止することを点検してください。
- 緊急エンジン停止スイッチからロックプレートを取り外すと、エンジンが停止することを点検してください。
- 緊急エンジン停止スイッチにロックプレートが付いていない状態では、エンジンが始動しないことを点検してください。

JMU34571

前進／後進

JWM00181

⚠警 告

前進、後進をする前に、付近に遊泳者がいないことや障害物等がないことを確認してください。

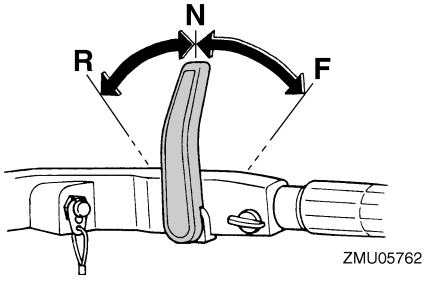
JCM01611

注 意

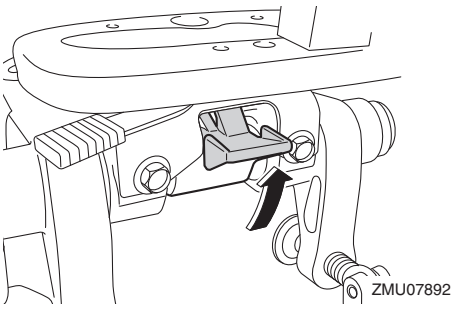
- **前進、後進の操作をする前に、暖機運転を行ってください。エンジンが暖まるまでは、通常よりアイドル回転数が高い場合があります。アイドル回転数が高いときは、シフトを中立（ニュートラル）の位置まで戻せない場合があります。アイドル回転数が高い場合は、エンジンを止め、シフトを中立（ニュートラル）にしてください。その後、エンジンを再始動して、暖機運転を行ってください。エンジン回転が下がらないまま、急激なシフト操作を行うとギヤ等に損傷を与える恐れがあります。**
- **前進、後進のシフト操作を頻繁に行う場合は、早めにオイル交換を行ってください。シフト操作を頻繁に行うと、部品の消耗や劣化が通常よりも著しく進行することがあります。**

前進または後進への操作

すみやかにギヤシフトレバーを前進側（船首側）または後進側（船尾側）に倒します。チルトロックレバーが装備されている場合、チルトロックレバーをロックの位置／チルトダウンの位置にします。



ZMU05762

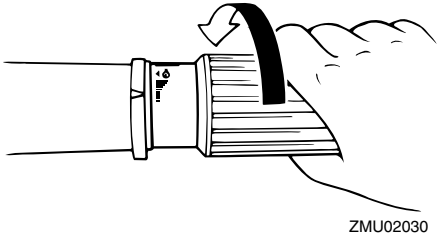

ZMU07892

要　点：

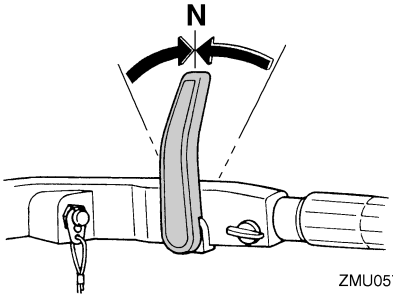
ギヤシフトレバーは、スロットルコントロールグリップが全閉の位置でなければ操作できません。

中立（ニュートラル）への操作

(1) アイドル回転数になるように、スロットルを閉じます。


ZMU02030

(2) アイドル回転数まで回転が落ちたら、すみやかにギヤシフトレバーを中立（ニュートラル）にします。



ZMU05764

JMU31743

停船

JWM01511

⚠警　告

- **船が制御不能に陥ったり、乗船者が船外へ投げ出されたり、ハンドルなどに身体を打ち付ける恐れがあるので、停船や減速のために後進操作を行なわないでください。重大な傷害の原因となる恐れがあります。また、シフト機構に損傷を与える原因となる恐れがあります。**
- **プレーニングスピードのときは、シフトを後進にしないでください。船の制御が出来なくなり、船への浸水が起こり、損傷を与える原因となる恐れがあります。**

船には、停船装置がありません。シフト中立（ニュートラル）操作後、エンジン回転数減少に伴う水の抵抗により停船します。停船距離は、総重量、水面の状態、風向によって異なります。

JMU27823

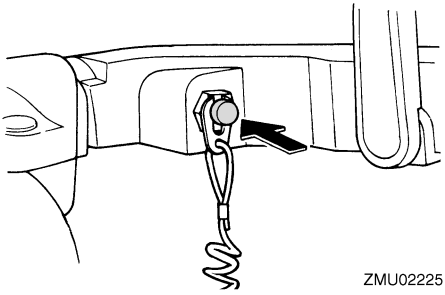
エンジン停止

エンジンを冷やすために、ギヤシフトレバーを中立（ニュートラル）の位置にして、数分間アイドリングを行います。高いエンジン回転での航走後は、すぐにエンジンを停止しないでください。

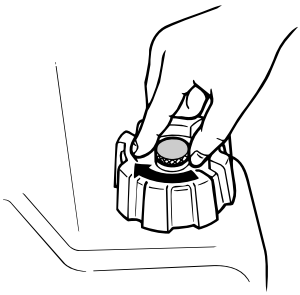
JMU27835

停止ボタン仕様

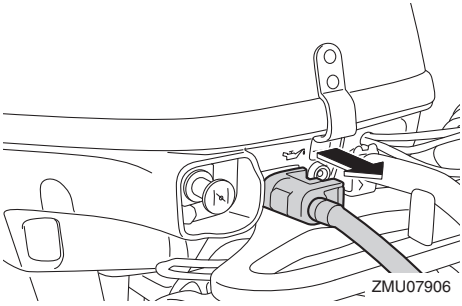
(1) 赤いエンジン停止ボタンをエンジンが停止するまで押します。


ZMU02225

(2) エンジン停止後はエアベントスクリュを閉め、燃料コック（装備されている場合）を閉めます。


ZMU02301

(3) 専用燃料タンクを使った場合は、ホースコネクターを外します。


ZMU07906

要　点：

エンジンシャットオフコード（装備されている場合）を引っ張って緊急エンジン停止スイッチからロックプレートを引き抜いてもエンジンは停止します。

JMU27865

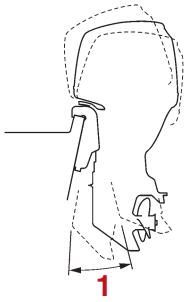
船外機トリム角度

JWM00741

⚠警 告

過度なトリム角度の調整は、ボートの安定性や操船に支障をきたし事故につながる恐れがあります。ボートの安定性や操船に異常を感じた場合は、ただちに航走スピードを落とすかトリム角度の再調整を行なってください。

船外機のトリム角度は、航走中のボートの船首の高さの位置決めに使います。トリム角度が適正であれば、最大限の性能が発揮され燃費も向上します。適正なトリム角度は、船体、エンジン、プロペラの組み合わせで決まります。また、適正なトリム角度は、ボートの負荷、海況、航走スピード等によって変わります。



1. トリム範囲

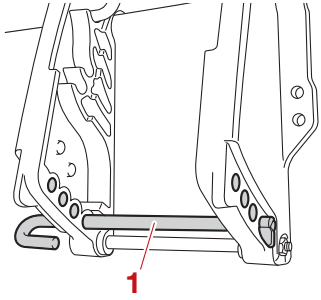
JMU27873

トリム角度の調整（マニュアルチルト仕様）

船外機トリム角度の調整用の穴がブラケットに 4 または 5ヵ所用意されています。

(1) エンジンを止めます。

(2) 船外機をチルトアップした状態でチルトピンを外します。



1. チルトピン

(3) チルトピンを再び好みの位置に差し込みます。

船首を上げるときは、上方の位置にチルトピンを差し込みます。
船首を下げるときは、下方の位置にチルトピンを差し込みます。
トリム角度を変えて試走を行ない、ボートの種類や使用状況に合わせて最適な位置を選んでください。

JWM00401

⚠警 告

- **トリム角度を調整する前には、必ずエンジンを停止してください。**
- **チルトピンを外したり差し込んだりする場合は、手を挟まれないように注意してください。**
- **チルトピンの位置を変えて最初に操船するときは、十分注意をしてください。徐々にスピードを上げ、ボートの安定性を欠く兆候や操作系の問題が無いかを見てください。不適切なトリム角度は、操船に支障をきたします。**

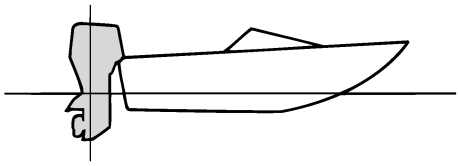
要　点：

船外機のトリム角度は、チルトピンを１段ずらすことにより約４°変わります。

JMU27913

トリム角度の設定とボートの取り扱い

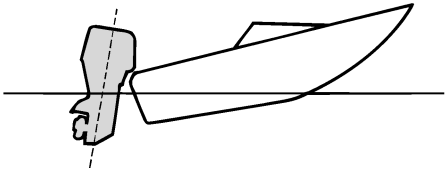
ボートが滑走する際、一般的に船首はキールラインが水面よりも 3° ～ 5° 上がっている状態が安定し、効率もよくなります。船外機トリム角度を大きく取ったときは、ボートは左右どちらかにハンドルを取られる傾向を示す場合があります。そのときはステアリング操作で補ってください。



ZMU01784

船首上がり

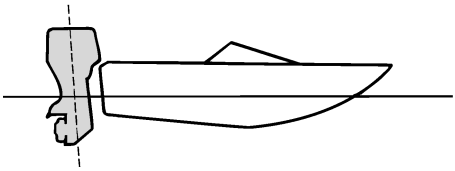
船外機のトリム角度を大きく取りすぎた場合は、航走中に船首が上がり過ぎます。この状態は船底への水の抵抗が増し、性能や燃費が低下します。更に過度のトリムアップは、プロペラがエアドローを引き起こし大きな性能低下を招きます。また、ボートが飛び跳ね乗員が船外へ投げ出される恐れもあります。



ZMU01785

船首下がり

船首が下がっているときは、停止状態からの発進加速が良くなります。高速航走での過度のトリムダウン（トリムイン）は、船首の抵抗が大きくなり、操船が困難となりボートの安定性を欠き危険を招く恐れがあります。



ZMU01786

要　点：

ボートの種類によっては、船外機のトリム角度の調整を行なっても航走姿勢が殆ど変化しないこともあります。

JMU27936

チルトアップ／ダウン

係留保管や浅瀬での係留時には、電蝕（水中の微弱電気による金属の腐蝕）や海草類の付着によってプロペラやロワーケースが損傷を受けないように船外機をチルトアップします。

JWM00223

⚠警　告

チルトアップ／ダウンの操作をするときは、付近に人が居ないこと確認してください。船外機とクランプブラケットの間に身体が挟まれる危険があります。

JWM00251

⚠警　告

燃料漏れは、火災を招く恐れがあります。長時間チルトアップする場合は燃料が漏れることがありますので、燃料ホースコネクターを外すか燃料コックを閉じてください。

JCM00242

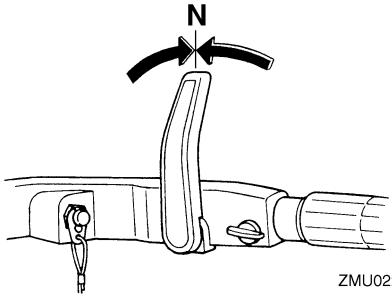
注　意

- **エンジンを停止してからチルトアップしてください。エンジン運転中にチルトアップした場合、オーバーヒートによる損傷を受けます。**
- **ティラーハンドル仕様の場合は、ハンドルを押さえつけてチルトアップしないでください。ティラーハンドルを損傷させる恐れがあります。**

JMU32663

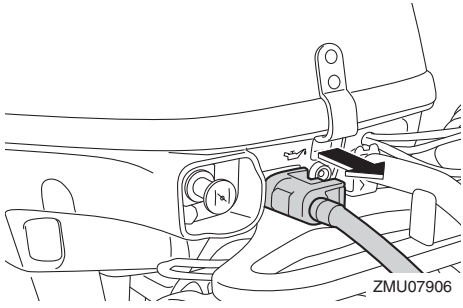
チルトアップ（マニュアルチルト仕様）

(1) ギヤシフトレバーを中立（ニュートラル）の位置にします。



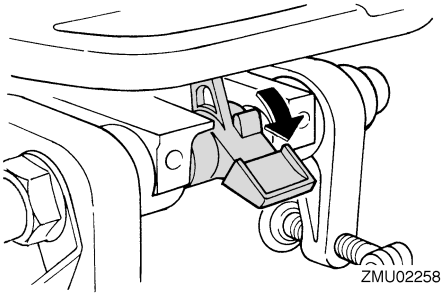
ZMU02240

(2) 燃料ホースコネクターを外します。

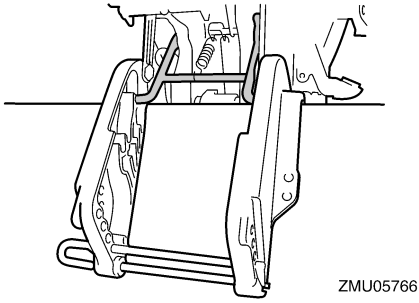


ZMU07906

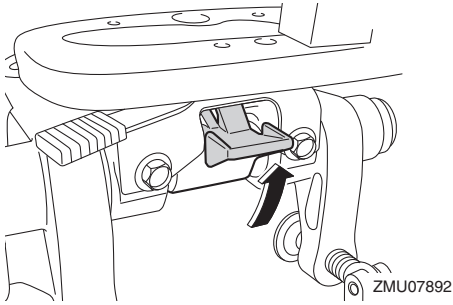
(3) チルトロックレバーが装備されている場合、解除 / チルトアップの位置にします。


ZMU02258

(4) 浅瀬航走レバーが装備されている場合、浅瀬航走レバーを引き上げます。
(5) トップカウルの後部を持って、いっぱいまでチルトアップします。
(6) チルトサポートノブを押し込むか、自動的にクランプブラケット内側の溝に入り船外機を保持します。***注意：*ボートを牽引するときは、チルトサポートレバー／ノブを使用しないでください。船外機が振動のためにゆるんでチルトサポートから抜け落ちる恐れがあります。船外機を通常の航走状態と同じ姿勢で運搬できないときは、更なる保持道具を使ってチルトアップした状態で船外機を確実に保持できるようにしてください。**[JCM01642]


ZMU05766

JMU30193
チルトダウン（マニュアルチルト仕様）
(1) チルトロックレバーをロックの位置にします。


ZMU07892

(2) チルトサポートバーが自動的にクランプブラケット内側の溝から外れるまで少しチルトアップします。
(3) チルトダウンします。

JMU28063
浅瀬航走

JMU28074
浅瀬航走（マニュアルチルト仕様）
JWM01782

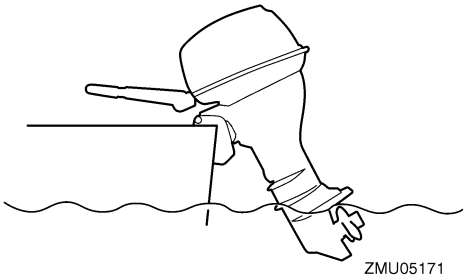
⚠警 告

- **浅瀬航走中はチルトロック機構が作動しません。また水中の障害物等にロワーケースが衝突した場合、水面上にはね上がり操船に支障をきたす恐れがあります。**
- **過大な後進出力を使用した場合は、水面上にプロペラがはね上がり大きな事故の原因となる恐れがありますので、十分に注意をしてください。**

JCM00261

注 意

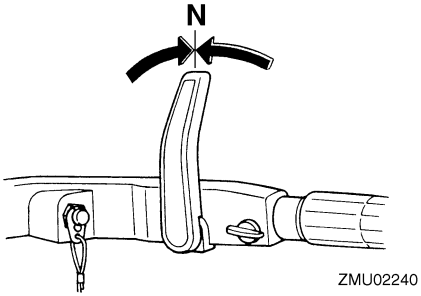
浅瀬航走中は冷却水取入口が水面上へ出るまでチルトアップしないでください。オーバーヒートによる損傷を受けることが考えられます。


ZMU05171

JMU32742

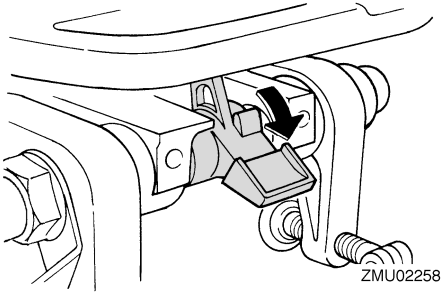
浅瀬航走セットの手順（マニュアルチルト）

(1) ギヤシフトレバーを中立（ニュートラル）にします。

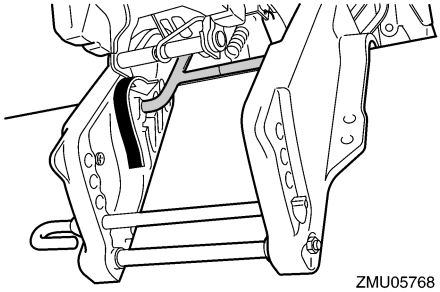


ZMU02240

(2) チルトロックレバーを解除／チルトアップの位置にします。

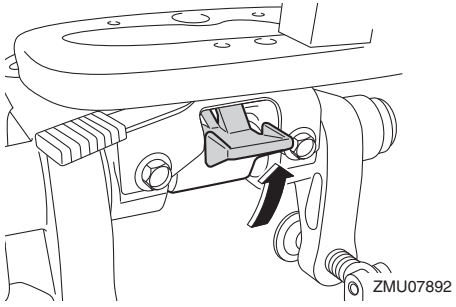

ZMU02258

(3) トップカウルの後部を持ち、チルトサポートバーが自動的にロックするまで船外機を少しチルトアップさせます。この状態で浅瀬航走ができます。この船外機は、2 箇所の浅瀬航走の位置が選べます。


ZMU05768

(4) 元の位置に戻すには、ギヤシフトレバーを中立（ニュートラル）にします。

(5) チルトロックレバーをロック／チルトダウンの位置へ戻します。チルトサポートバーが自動的にクランプブラケットの溝から外れるまで少しチルトアップします。


ZMU07892

(6) ゆっくりと最後までチルトダウンします。

JMU28196

他の航走状況

塩水域での航行

塩水域で航行後は、冷却経路を真水で洗浄して、目詰まりが生じないようにしてください。船外機の外部も真水で洗ってください。

泥水や濁り水、酸性水域での航行

船外機を酸性水域や泥水、濁り水のような沈殿物の多い水域でご使用される場合は、別売のクロームメッキウォーターポンプキット（13 ページ参照）の取り付けをお勧めいたします。このような水域を航行した後には、冷

却経路を真水で洗い流して、腐蝕を防止してください。船外機の外部も真水で洗ってください。

JMU2822B

運搬と保管

JWM02621

⚠警 告

● 燃料容器の最大容量まで燃料を入れないでください。ガソリンは暖まることによって膨張し、燃料容器が膨張します。燃料漏れや火災の原因になります。
● 燃料漏れは火災の原因になります。船外機を運搬、保管する際は燃料ホースコネクターを船外機から外し燃料漏れを防止します。
● チルトアップした船外機の下には絶対に入らないでください。偶発的原因で船外機が突然降下して、身体が挟まれる恐れがあり危険です。
● ボートを牽引しているときは、チルトサポートレバー／ノブを使用しないでください。揺られてレバーが外れ、船外機が突然降下してくることがあります。船外機を通常の航走状態と同じ姿勢で運搬できないときは、更なる保持道具を使ってチルトアップした状態で船外機を確実に保持できるようにしてください。

JCM02441

注 意

燃料を長期間保管する際は、燃料を燃料タンクから抜いてください。燃料の劣化により、燃料系統が詰まりエンジンが始動しにくくなるばかりでなく、エンジンが不調になる可能性があります。

燃料を運搬や保管する際は、消防法に適合した携帯タンクに保管してください。
船外機を運搬または保管する際は、燃料に関する以下の項目を確認してください。
● 燃料ホースコネクターを船外機から外してください。
● 燃料タンクの燃料タンクキャップとエアベントスクリュを確実に締めてください。
● 係留保管やボートを牽引する時など長期間チルトアップする場合は、燃料ホースコネクターを船外機から外し、燃料タンクキャップとエアベントスクリュを確実に締めてください。

船外機の運搬と保管は通常の航走状態と同じ姿勢で行なってください。このときに、路面から十分に間がとれない場合は、チルトアップして船外機を確実に保持できるような道具（トランサムバー等）を使用して運搬してください。詳しくは、ヤマハ取扱店へお問い合わせください。

JMU34822

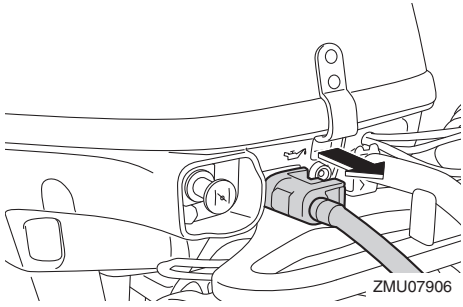
船外機の取り外し

JCM01681

注 意

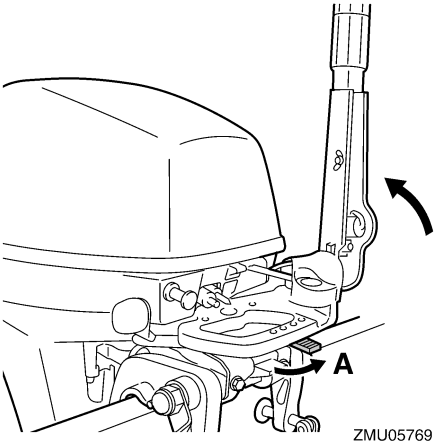
船外機の取り付け、取り外しを行なうときは、トップカウルを持って行なわないでください。トップカウルが外れ、船外機が落下する恐れがあります。

(1) エンジンを停止して、船体を陸上に引き上げます。
(2) 燃料ホースを燃料ホースコネクターから外します。

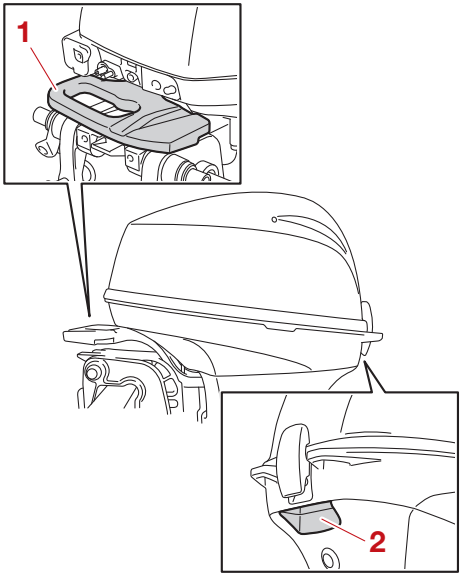


(3) 電動始動機種は、バッテリーケーブルをバッテリーから取り外します。

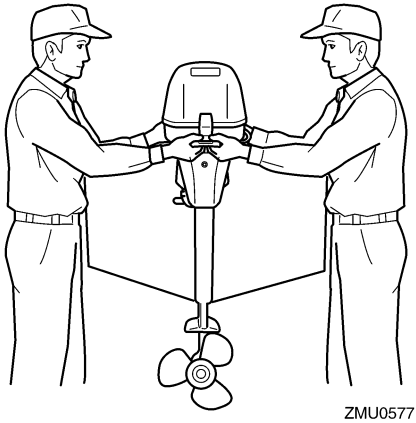
(4) ティラーハンドル仕様の場合は、調整レバーを “A” の位置にして、ステアリングを締めます。さらにステアリングブラケットをつかみやすくするために、ティラーハンドルを垂直に持ち上げます。



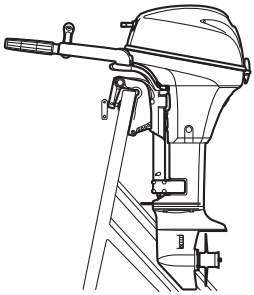
(5) クランプスクリューを緩めます。
(6) イラストで示されたハンドグリップとステアリングブラケット部分をつかみ、船外機を持ち上げて船体から取り外します。



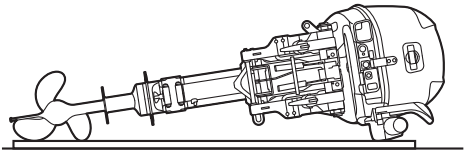
1. ステアリングブラケット
2. ハンドグリップ



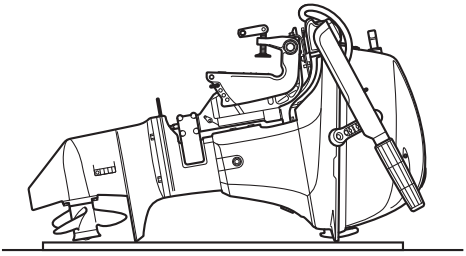
(7) 船体から船外機を外して単体で運搬や保管を行なう場合は、船外機スタンドを使用するか、図のような状態を保ってください。



ZMU02263



ZMU02487



ZMU08291

要　点：

船外機を横にして運搬する際は、外傷が出来ないようにタオルのようなものを下に敷いてください。

JMU28242

長期保管

船外機を長期にわたって保管する場合は、劣化損傷を留めるためにヤマハ取扱店にて格納点検を受けられることをお奨めいたします。ご自身でやられる場合は、簡易的方法として次のようにしてください。

JCM01081

注 意

- **オイルパンからシリンダー内へオイルが流れ込む不具合を避けるために運搬や保管のときは、垂直状態に保ってください。横にして保管や運搬をする場合はエンジンオイルを抜いてクッションなどを敷いてください。**
- **冷却水が完全に抜けるまで、船外機を横にして置かないでください。冷却水が排気側からシリンダー内へ流れ込み損傷の原因になります。**
- **船外機の保管は、乾燥した風通しの良い場所で行なってください。直射日光の当たる場所には置かないでください。**

JMU28306

保管手順

JMU32027

水槽を使った洗浄

JCM00302

注 意

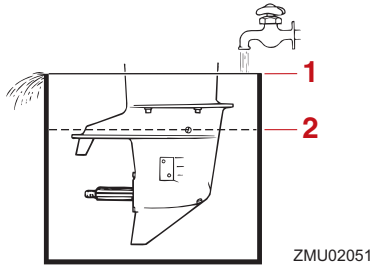
エンジン始動する前に、冷却経路に水を供給してください。冷却水を供給せずにエンジンを運転すると、オーバーヒートしてエンジンが損傷します。

(1) 船体から船外機を取り外してください。（詳細は 49 ページを参照ください。）

(2) 真水を使って船外機外部を洗ってください。***注意：*インテークグリルに水を噴きつけないでください。**[JCM01841]53 ページを参照ください。

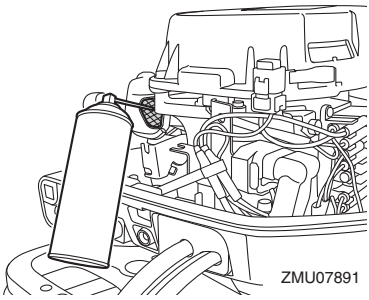
(3) 燃料ホースを燃料ホースコネクターから外します。

(4) トップカウルとサイレンサーカバーまたはキャップ（装備されている場合）、プロペラを外します。（63 ページを参照ください。）
(5) 船外機を水槽に取り付けます。（26 ページを参照ください。）
(6) キャビテーションプレートが浸かるまで真水を水槽に入れます。***注意：*****水位がキャビテーションプレート以下の場合は冷却水の供給が十分に出来ず、エンジンに損傷をきたします。**[JCM00292]



1. 水面
2. 最低の水位

(7) 塩分、砂、ゴミなどによるエンジン冷却経路の目詰まりを防止するために洗浄が必要です。さらに防錆剤（マリンガード）を吹き付けることにより、錆による損傷を防ぐことができます。洗浄と吹き付けは同時に行ってください。**警告！ エンジン運転中は電装部品に触れたり、外したりしないでください。エンジン運転中は、手、髪、衣服等を回転部品に巻き込まれないように近づけないでください。**[JWM00092]
(8) シフトを中立（ニュートラル）にしてエンジンを始動させます。
(9) エンジンを停止させる前に、キャブレタまたは、サイレンサーカバーの吹き付け孔に素早く防錆剤（マリンガード）を吹き付けます。適切であれば、エンジンが停止します。



(10) 水槽から船外機を取り出します。
(11) サイレンサーカバーまたは吹き付け孔のキャップ（装備されている場合）、トップカウルを取付けます。
(12) 防錆剤（マリンガード）が使用できない場合、燃料系統内の燃料が無くなってエンジンが停止するまでアイドリング（無負荷最低速回転）で運転します。
(13) 船外機から冷却水を完全に抜き、表面をふきあげます。
(14) 防錆剤（マリンガード）が使用できない場合、スパークプラグを外します。小量のエンジンオイルをシリンダー内へ注入します。手動でフライホイールロータを 4 ～ 5 回転させオイルを行き渡らせます。スパークプラグを取り付けます。
(15) 燃料タンクを空にします。
(16) 船外機の保管は、乾燥した風通しの良い場所で行なってください。直射日光の当たる場所には置かないでください。

JMU41072
潤滑

(1) ギヤオイルを交換します。ギヤオイル交換の手順は、65 ページを参照してください。ギヤオイル内に水が混ざっている場合は、オイルシールが損傷しています。航走前にヤマハ取扱店にて、オイルシールの交換を行ってください。
(2) すべてのグリス給脂箇所を潤滑します。グリス給脂箇所の詳細は 58 ページを参照してください。

要　点：

長期保存の場合は、防錆剤（マリンガード）をエンジンに噴霧することをおすすめします。防錆剤（マリンガード）と噴霧の方法については、ヤマハ取扱店にご相談ください。

JMU31334

エンジン内部冷却経路の洗浄

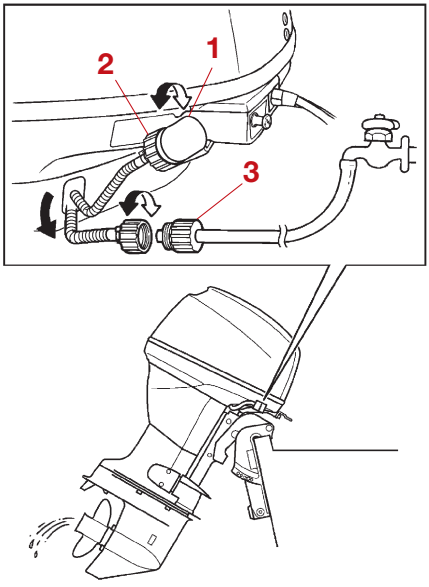
ご使用後はその都度、水洗装置を使って冷却経路を洗浄してください。

JCM01531

注 意

エンジンは始動しないでください。ウォーターポンプが壊れ、オーバーヒートしてエンジンが損傷します。

(1) エンジンを停止します。
(2) ボトムカウル上の固定場所から給水ホースコネクターを外します。



1. 固定場所
2. 給水ホースコネクター
3. 水道ホースアダプター（同梱）

(3) 水道ホースアダプターを使用して、給水ホースコネクターと水道ホースを接続します。
(4) エンジンを停止させたまま、水道水を約15 分間供給します。
(5) 水道水の給水を止め、水道ホースアダプターを外します。
(6) 給水ホースコネクターをボトムカウル上の固定場所へ確実に取り付けます。***注意：*****通常運転時は、給水ホースコネクターがボトムカウルの固定場所で緩んだ状態や、外れたままの状態にしないでください。冷却水が漏れてオーバーヒートの原因になります。洗浄後は、給水ホースコネクターをボトムカウルの固定場所へ確実に取付けてください。**[JCM00542]

要　点：

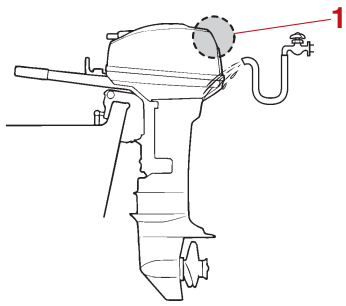
- 接続の際は、船外機に同梱されている水道ホースアダプターを使用してください。
- 水上での洗浄はチルトアップしたほうが、より効果的に水が循環します。

JMU44342

船外機の洗浄

船外機を洗浄する際は、トップカウルを取り付けた状態で行ってください。

(1) 真水を使って船外機外部を洗ってください。***注意：*****インテークグリルに水を噴きつけないでください。**[JCM01841]



1. インテークグリル

(2) 船外機から冷却水を完全に抜き、表面を拭きあげます。

JMU28463
船外機外装の点検
船外機本体表面の傷、破損、塗装の剥がれ、変色（白化）等がないか点検してください。塗装の剥がれがある場合は、ヤマハ船外機専用の塗料で補修してください。詳しくはヤマハ取扱店にご相談ください。

JMU37077
定期点検

JWM01982
⚠警 告

定期点検には特殊工具、補給品および技術スキルが必要です。お客様自身が整備作業についてあまり熟知されず、工具や補給品がない場合は、ヤマハ取扱店またはその他の有資格の整備士に保守を依頼してください。
この手順には、エンジンの分解作業と危険な部品の取り扱いが含まれます。可動、高熱または電気部品による負傷を防止するために：
- **お客様自身で整備作業をおこなう場合は、特別な指示がない限り、エンジンを停止して、各キー類とエンジンシャットオフコードを自分の身に付けて保管してください。**
- **高熱の部品や各種液体の取扱いは、エンジンが冷えた後でおこなってください。**
- **取り外した部品は必ず組み付けてからエンジンを運転してください。**

JMU34152
シビアコンディション
シビアコンディションとは、以下に示す操作を単独または組み合わせて行った場合を指します。
- 長時間にわたり、船外機を最大回転数(r/min)またはそれに近い回転数で継続して運転した場合
- 長時間にわたり、船外機を低い回転数(r/min) で継続して運転した場合
- 十分な暖機を行わず、また十分に冷やさないでエンジンを停止した場合
- 急加速と急減速を頻繁に行った場合
- シフト操作を頻繁に行った場合
- エンジンの始動と停止を頻繁に行った場合
- 積載物を軽い状態と重い状態とに頻繁に変化させて、運転した場合

上記のような条件で船外機を運転した場合、通常のメンテナンスサイクルよりも早いサイクルで整備を行う必要があります。当社は、整備手帳に定めた整備の周期に対し、その 1/2 の間隔で整備を行うようにお客様に勧告致します。たとえば、ある整備を 50 時間毎に実施すると定めている場合は、(上記のような過度の取扱い条件の場合)25 時間毎に整備を行ってください。そうすることにより、エンジン構成パーツの短期間での劣化を防ぐことができます。

JMU3056G

定期点検表 1

要　点：

- 作業内容についての説明は本章の各項目を参照してください。
- この点検表は1年200時間を想定したメンテナンスサイクルで、使用後には冷却水通路の水洗が行われていることが基本となっています。シビアコンディションで使用した場合は、通常のメンテナンスサイクルよりも早めに点検を行ってください。
- 各部の点検結果により分解・修理作業を必要とする場合があります。
- 消耗部品及び油脂類は、保証期間によらず使用過程で確実に消耗・劣化します。
- 酸性水域や泥水、濁り水のような沈殿物の多い水域等でのご使用後は、真水を使って洗浄してください。お客様の船外機の使用状況により、点検時間が異なる場合がありますのでご了承ください。詳しくはヤマハ取扱店へご相談ください。

“●” 印の項目については、お客様ご自身で点検を行ってください。

“○” 印の項目については、最寄りのヤマハ取扱店に依頼してください。

項目	内容	初回	次回			ページ
		10 時間（1ヶ月）	50 時間（3ヶ月）	100 時間毎（6ヶ月毎）	200 時間毎（1 年毎）	
アノード（外部取り付け）	点検／交換		●/○	●/○		66
アノード *1	点検／交換			○		–
バッテリー（電解液の量、ターミナル）	点検	●/○	●/○	●/○		67
バッテリー（電解液の量、ターミナル）	補充／充電／交換			○		–
冷却水漏れ	点検／交換	○	○	○		–
カウルロックレバー	点検				○	–
燃料フィルター（一体型使い捨てタイプ）	交換			○		–
燃料ホース	点検	●	●	●		–
燃料ホース	点検／交換	○	○	○		–
燃料／エンジンオイル漏れ	点検	○	○	○		–
燃料タンク（別体型タイプ）	点検／清掃	○	○	○		–
ギヤオイル	交換	●/○		●/○		65
ギヤオイルの汚れ、漏れ	点検	●/○	●/○	●/○		65
グリスポイント	給脂	●/○	●/○	●/○		58

項目	内容	初回	次回			ページ
		10 時間（1ヶ月）	50 時間（3ヶ月）	100 時間毎（6ヶ月毎）	200 時間毎（1 年毎）	
エンジンのかかり具合／騒音	点検	●/○	●/○	●/○		33
アイドル回転数／騒音	点検	●/○	●/○	●/○		60
プロペラ／プロペラナット／割ピン	点検／交換	●/○	●/○	●/○		62
シフトリンク／シフトケーブル	点検／調整／交換	○	○	○		−
サーモスタット	点検／交換				○	−
スロットルリンク／スロットルケーブル	点検／調整／交換	○	○	○		−
インペラー／ウォーターポンプハウジング	点検／交換			○		−
冷却水点検孔の水	点検	●/○	●/○	●/○		40
冷却水取入口	点検	●/○	●/○	●/○		−
エンジンオイル	交換	●/○		●/○		60
オイルフィルター（オイルパン一体型）	点検／交換				○	−
タイミングベルト	点検／交換			○		−
バルブクリアランス	点検／調整				○	−
ストップスイッチ	点検／交換	○	○	○		−
ワイヤーハーネス接続部／ワイヤーカプラー接合部	点検／交換	○	○	○		−
スパークプラグ	点検／交換				●/○	59
スパークプラグキャップ／ハイテンションコード	点検／交換	○		○		−

JMU45870

*1 シリンダーヘッド

JMU2887E

定期点検表 2

項目	内容	次回		ページ
		500 時間毎（2 年 6ヶ月毎）	1000 時間毎（5 年毎）	
アノード *2	交換		○	−
タイミングベルト	交換		○	−

項目	内容	次回		ページ
		500 時間毎（2 年 6ヶ月毎）	1000 時間毎（5 年毎）	
燃料ポンプ	点検／交換	○		−
エキゾーストガイド、エキゾーストマニホールド	点検／交換		○	−

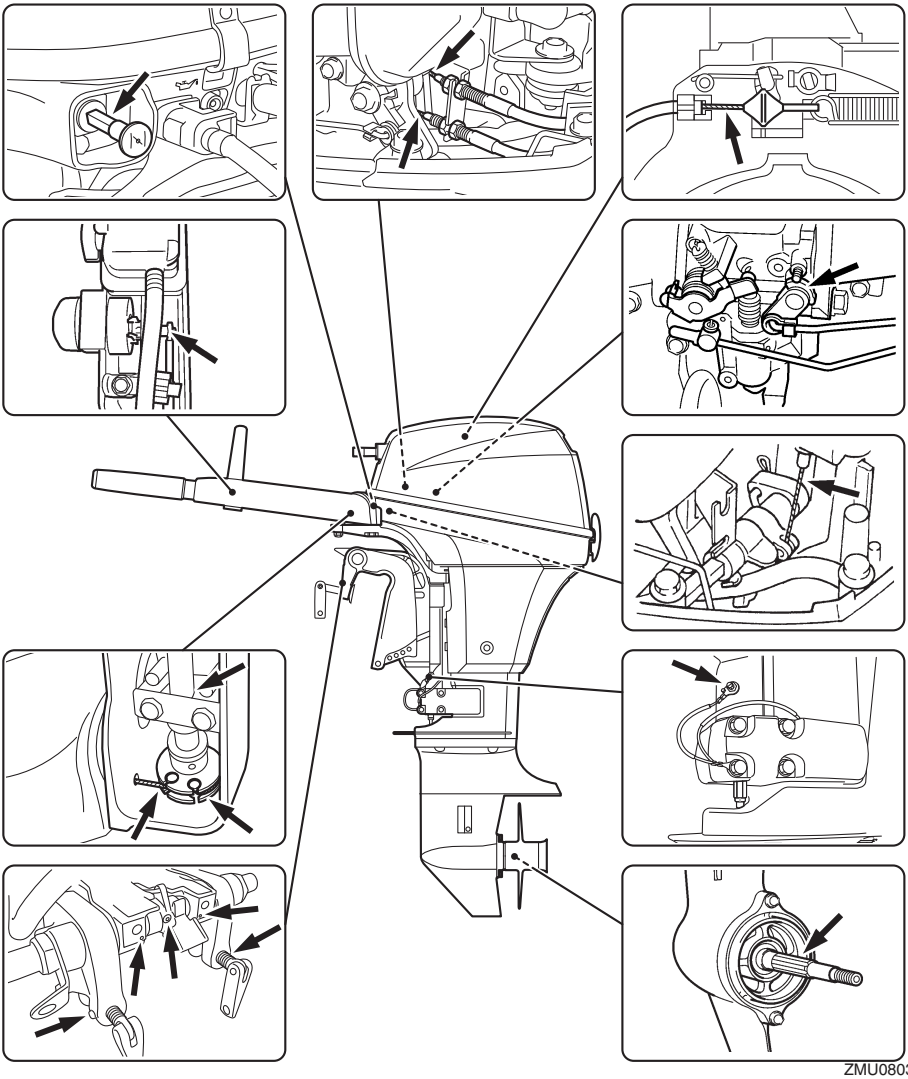
JMU45900

*2 シリンダーヘッド

JMU28946

グリス給脂箇所

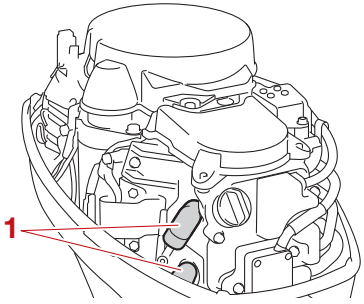
ヤマルーブグリース A （耐水グリス）
ヤマハグリス D （耐食グリス）プロペラシャフト用



ZMU08037

JMU44493
スパークプラグの点検
スパークプラグは、点検が簡単なエンジンの重要な構成部品です。スパークプラグの状態は、エンジン性能に影響を与えます。スパークプラグは、電極にカーボン等が付着して徐々に劣化して行きますので、定期的に外して点検を行なう必要があります。

(1) 全てのスパークプラグキャップをスパークプラグから外してください。



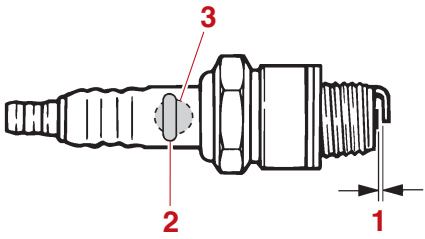
1. スパークプラグキャップ

(2) スパークプラグを取り外します。電極が消耗していたり、カーボン等で汚れている場合は交換してください。**警告！ スパークプラグ脱着の際は、碍子を損傷させないように注意してください。漏電して、火災等を誘発する恐れがあります。**

[JWM00562]

標準スパークプラグ；
BR6HS-10

(3) 必ず規定のスパークプラグをご使用ください。エンジンが適切に作動しなくなる恐れがあります。電極の隙間は、シックネスゲージを用いて点検し、規定値を外れている場合は、スパークプラグを交換します。



ZMU02179

1. スパークプラグギャップ
2. スパークプラグ品番
3. スパークプラグマーク (NGK)

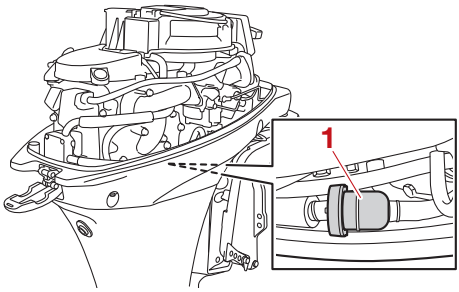
スパークプラグギャップ；
0.9–1.0 mm

(4) スパークプラグの取り付けは、取り付け面をきれいに拭いて規定トルクで締めてください。

スパークプラグ締め付けトルク；
24 N·m

要　点：
スパークプラグを取り付ける際にトルクレンチが準備できない時は、指でいっぱいに締め込んだ後、プラグレンチを使用して締め込みます。プラグレンチを使用しての締め込み目安は、再取り付けの場合は 1/12 回転、新品の場合は 1/2 ～ 2/3 回転締め込んでください。出来るだけ早い時期に、トルクレンチを使用して規定値で締めてください。

JMU28992
燃料フィルターの点検
燃料フィルターは定期的に点検してください。この燃料フィルターは一体型の使い捨てタイプです。燃料フィルターの中に異物等が混入している場合は交換してください。交換の際は、ヤマハ取扱店へご相談ください。



1. 燃料フィルター

JMU29045
アイドル回転数（無負荷最低速回転）の点検
JWM00452

⚠警 告

- **エンジン運転中は電装部品に触れたり、外したりしないでください。**
- **エンジン運転中は手、髪、衣服等が回転部品に巻き込まれないように注意してください。**

JCM00491

注 意

この作業は水上で行なってください。陸上で行なう場合は水洗キットや水槽を使って行なってください。

タコメーター（エンジン回転計）が装備されていない場合、診断用のタコメーターが必要です。水洗キットや水槽を使った点検では水上での点検結果と違うことがあります。
アイドル回転数の点検はエンジンが完全に暖まった状態で行ってください。

(1) 中立（ニュートラル）でエンジンを始動し、暖機運転を終了します。
(2) 規定のアイドル回転数であるか点検します。規定のアイドル回転数については 9 ページを参照してください。点検が困難な場合や調整が必要な場合はヤマハ取扱店へご相談ください。

JMU38838
エンジンオイルの交換
JWM00761

⚠警 告

- **エンジン停止直後には、オイルがたいへん熱くなっていますので、すぐには排出しないでください。**
- **ボートトランサムや専用スタンドに船外機をしっかりと固定してください。**

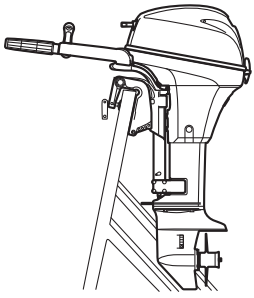
JCM01241

注 意

初回は使用後 10 時間、その後は 100 時間、または6カ月毎にオイル交換を行ってください。

オイルがこぼれる事による環境汚染を防ぐために、エンジンオイルを交換する際は、オイルチェンジャーを使用することを強くお奨めします。オイルチェンジャーを使用できない場合は、ドレンスクリューを取り外してエンジンオイルを排出します。エンジンオイルの交換が困難な場合は、ヤマハ販売店にご相談ください。

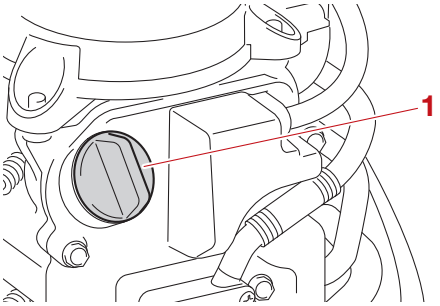
(1) 船外機を垂直状態にします。***注意：*船外機が垂直な状態（チルトアップしていない）でなければ、オイルレベルゲージが示すオイルレベルは不正確なものになります。**[JCM01862]



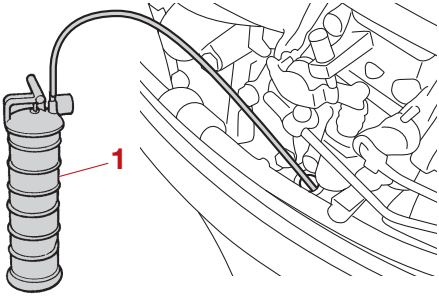
ZMU02263

(2) エンジンを始動させ、エンジンを温めてからさらに 5 ～ 10 分間はアイドル状態を保たせます。

(3) エンジンを停止し、そのまま 5 ～ 10 分間放置します。
(4) トップカウルを取り外します。
(5) 給油キャップを外します。オイルレベルゲージを引き抜き、オイルチェンジャーでオイルを完全に吸引します。



1. 給油キャップ

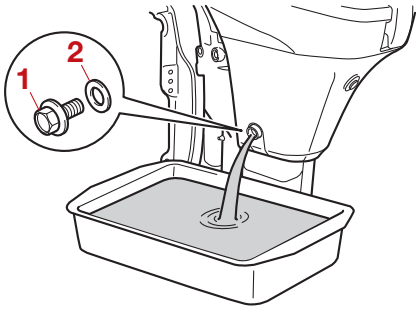


1. オイルチェンジャー

要　点：

オイルチェンジャーを使用している場合は、手順 6 と手順 7 を除いて作業して下さい。

(6) エンジンオイルの容量以上の廃油受皿を用意します。ドレンホールの下に容器を置き、ドレンスクリューとガスケットを外して、廃油受皿の中に完全にオイルを排出させます。このとき、こぼれたオイルはすぐに拭き取ってください。



1. ドレンスクリュー
2. ガスケット

要　点：

もしオイルが排出されにくい場合は、チルトの角度を変えたり、左右にステアリング操作をしてオイルを排出してください。

(7) ドレンスクリューのガスケットを新しいものと交換し、オイルを軽く塗ってから取り付けをします。

ドレンスクリュー締め付けトルク：
24 N·m

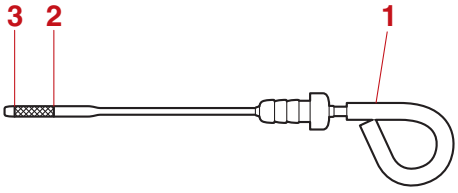
要　点：

トルクレンチが準備できない場合は、ドレンスクリューのガスケットが座面に当たるまで指でねじ込み、更に 1/4 ～ 1/2 回転締め込みます。できるだけ早い時期に、トルクレンチを使って正規の値で締めてください。

(8) 給油口から規定量のエンジンオイルを入れ、給油キャップを締め、オイルレベルゲージを元に戻します。***注意：*オイルは入れすぎないようにしてください。エンジンオイルを入れすぎた時は、規定量になるようにオイルを抜いてください。オイルが多すぎるとオイル洩れや故障の原因となります。**[JCM01851]

推奨エンジンオイル：
ヤマルーブ　4ストローク　マリン　エンジンオイル
エンジンオイル容量：
0.8 L

(9) 船外機を5～10分間そのままにします。
(10) オイルレベルゲージを引き抜き、付着しているオイルを拭き取ります。
(11) 正確にオイル量を測るためにオイルレベルゲージをいっぱいまで差し込み／ねじ込み、再び引き抜きます。
(12) エンジンオイルの油面がオイルレベルゲージの上限マークと下限マークの間にあることを確認します。もし下限マーク以下の場合や上限マーク以上の場合は、ヤマハ販売店で点検を受けてください。

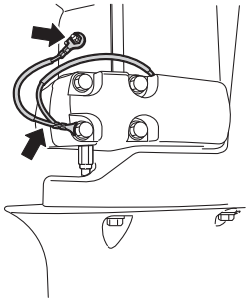


1. オイルレベルゲージ
2. 上限マーク
3. 下限マーク

(13) エンジンを始動します。その後、油圧低下警報表示が消灯したままであることを確認します。また、オイル漏れのないことも確認します。***注意：*油圧低下警報灯が点灯した場合、またはオイルが漏れている場合は、エンジンを停止し原因を探してください。原因が究明できず回復しない場合は、続けて使用しますと大きな損傷の原因となりますので、ヤマハ取扱店で点検を受けてください。**[JCM01623]
(14) トップカウルを取り付けます。
(15) 廃油の処理は、法律や条例等に従って行ってください。

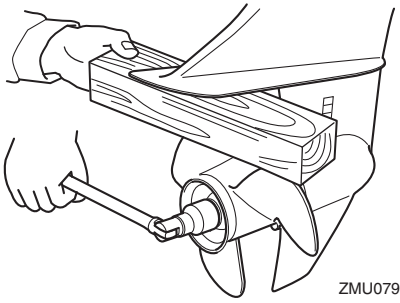
要　点：
- 廃油の処理に関する詳しい情報はヤマハ販売店にご相談ください。
- トローリング（微速航走）等での使用が多い場合は、更に早めのオイル交換をおすすめします。

JMU29116
配線と各接続部の点検
- 各配線の接続が確実にされていることを点検してください。
- 導通用の各アース線が確実に取り付けられていることを点検してください。


ZMU07837

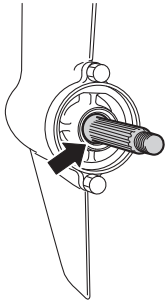
JMU32113
プロペラの点検
JWM01882
⚠警　告
プロペラ付近は偶発的原因でエンジンが始動したときに、大きな事故につながる恐れがあります。プロペラの点検や脱着等を行なう前には、シフトを中立（ニュートラル）にし、エンジンスイッチからキーを抜き取り、緊急エンジン停止スイッチのロックプレートを外してください。またバッテリーコードをバッテリーから外してください。

プロペラナットを締めたり緩めたりするときは素手でプロペラを持たないでください。プロペラとキャビテーションプレートの間に木片等をかませてから行なってください。


ZMU07969

主な点検箇所

- プロペラブレードの曲がり、表面の侵食、損傷等の点検をします。
- プロペラシャフトの損傷等を点検します。
- プロペラシャフトに釣り糸が巻き込まれていないか点検します。


ZMU07970

- プロペラシャフトのオイルシールが損傷していないか点検します。

JMU30663

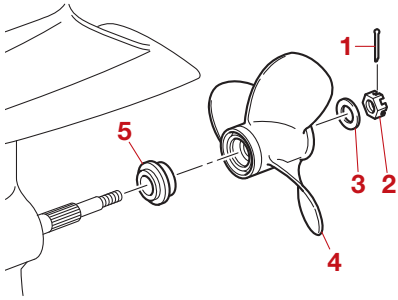
プロペラの取り外し

JMU29198

スプライン仕様

(1) プライヤーを使って割ピンを伸ばし、引き抜きます。

(2) プロペラナット、ワッシャー、スペーサー（スペーサー付きの場合）を取り外します。**警告！ プロペラナットを緩めるときは素手でプロペラを持たないでください。**[JWM01891]



1. 割ピン
2. プロペラナット
3. ワッシャー
4. プロペラ
5. スラストワッシャー

プロペラナットの 2 面幅；
17 mm

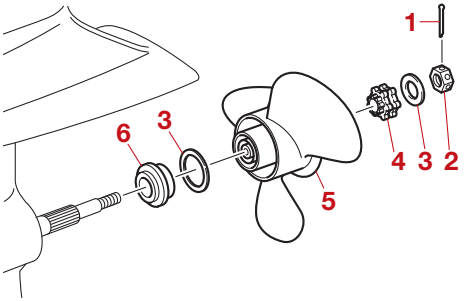
(3) プロペラ、ワッシャー（ワッシャー付きの場合）、スラストワッシャーを取り外します。

JMU46500

デュアルスラスト仕様

(1) プライヤーを使って割ピンを伸ばし、引き抜きます。

(2) プロペラナット、ワッシャー、スペーサーを取り外します。**警告！ プロペラナットを緩めるときは素手でプロペラを持たないでください。**[JWM01891]



1. 割ピン
2. プロペラナット
3. ワッシャー
4. スペーサー
5. プロペラ
6. スラストワッシャー

プロペラナットの 2 面幅；
17 mm

(3) プロペラ、ワッシャー、スラストワッシャーを取り外します。

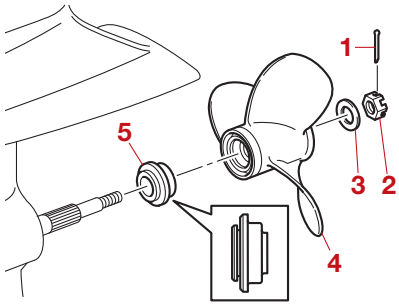
JMU30673
プロペラの取り付け
JMU29237
スプライン仕様
JCM00502

注 意

割ピンは新しいものを使用して端を確実に折り曲げてください。プロペラ脱落の原因となります。

(1) プロペラシャフトにヤマハグリス D（耐食グリス）を塗布します。
(2) スラストワッシャーをプロペラシャフトに入れ、ワッシャー付きはワッシャーを入れ、プロペラを取り付けます。***注意：*プロペラを取り付ける前には、スラストワッシャーを必ず入れてください。プロペラとロワーケースが接触し損傷する恐れがあります。**[JCM01882]

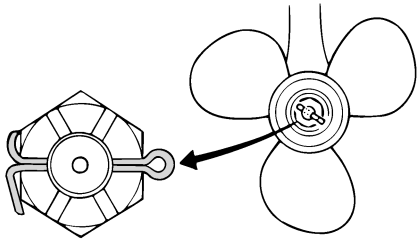
(3) スペーサー付きはスペーサーを入れ、ワッシャーを取り付けます。そしてプロペラナットを規定トルクで締め付けます。



1. 割ピン
2. プロペラナット
3. ワッシャー
4. プロペラ
5. スラストワッシャー

規定トルク；
17 N·m

(4) プロペラシャフトとプロペラナットの穴位置を合わせ、新しい割ピンを取り付けます。割ピンの端を折り曲げます。***注意：*使用済の割ピンを再利用しないでください。運転中にプロペラが脱落する恐れがあります。**[JCM01892]



ZMU01805

要　点：

規定トルクでプロペラナットを締め付けたときにプロペラシャフトの穴位置が合わないときは、更に締め込んで穴位置を合わせてください。

JMU46512

デュアルスラスト仕様

JCM00502

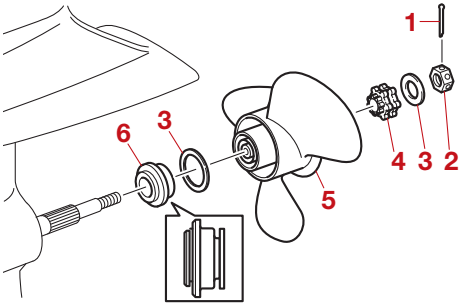
注 意

割ピンは新しいものを使用して端を確実に折り曲げてください。プロペラ脱落の原因となります。

(1) プロペラシャフトにヤマハグリス D（耐食グリス）を塗布します。

(2) スラストワッシャー、ワッシャーをプロペラシャフトに入れ、プロペラを取り付けます。***注意：*プロペラを取り付ける前には、スラストワッシャーを必ず入れてください。プロペラとロワーケースが接触し損傷する恐れがあります。**[JCM01882]

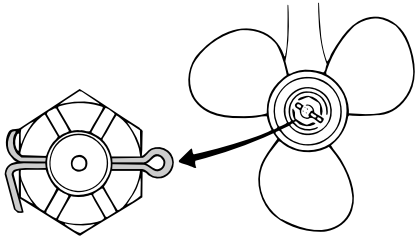
(3) スペーサー、ワッシャーを入れ、プロペラナットを規定トルクで締め付けます。



1. 割ピン
2. プロペラナット
3. ワッシャー
4. スペーサー
5. プロペラ
6. スラストワッシャー

規定トルク；
21 N·m

(4) プロペラシャフトとプロペラナットの穴位置を合わせ、新しい割ピンを取り付けます。割ピンの端を折り曲げます。***注意：*使用済の割ピンを再利用しないでください。運転中にプロペラが脱落する恐れがあります。**[JCM01892]



ZMU02063

要　点：

規定トルクでプロペラナットを締め付けたときにプロペラシャフトの穴位置が合わないときは、更に締め込んで穴位置を合わせてください。

JMU47070

ギヤオイルの交換

JWM00801

⚠警 告

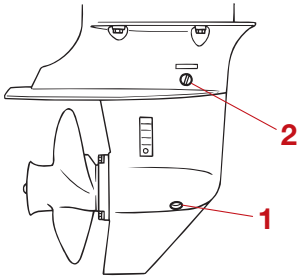
- **船外機はボートトランサムや専用スタンドに確実に固定してください。**
- **チルトアップされた船外機の下には入らないでください。偶発的に船外機が降りてきた場合には、重大な事故につながる恐れがあります。**

(1) ドレンプラグが真下にくる位置まで船外機を傾けます。

(2) 廃油の受け皿をロワーケースの下に敷きます。

(3) ギヤオイルドレンプラグとガスケットを外します。***注意：*磁石仕様のギヤオイルドレンプラグに大量の金属粒子が付**

着している場合は、ロワーユニットに問題がある可能性があります。ヤマハ取扱店で点検を受けてください。[JCM01901]



1. ギヤオイルドレンプラグ
2. オイルレベルプラグ

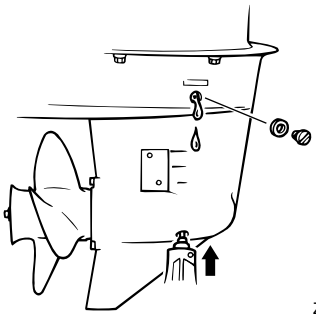
要　点：

- ギヤオイルドレンプラグが磁石仕様の場合、ギヤオイルドレンプラグに金属粉が付着していることがあります。取り除いてから再び取り付けてください。
- ガスケットは新しいものを使用してください。取り外したガスケットは再使用しないでください。

(4) オイルレベルプラグとガスケットを外し、ギヤオイルを残らず排出させます。
***注意：*排出したギヤオイルに大量の金属粒子や水が混入している、または白濁しているときは、ギヤケースの損傷等の恐れがあります。ヤマハ取扱店へ点検、修理を依頼してください。**[JCM00714]

(5) 船外機を垂直状態に保ち、ヤマハ船外機ギヤオイルをオイルドレン穴より注入します。

推奨ギヤオイル：
船外機ギヤオイル
推奨ギヤオイルグレード：
SAE 90 API GL-4
ギヤオイル容量：
0.150 L (F9.9JMH, F9.9JWH)
0.370 L (FT9.9LWH)



ZMU06686

(6) 注入したギヤオイルがオイルレベル穴から溢れ出したら、新しいガスケットを取り付けたオイルレベルプラグを締めます。

要　点：

取り付けの前に、オイルレベルプラグのねじ部とガスケットにギヤオイルを薄く塗ってください。

オイルレベルプラグ締め付けトルク；
7 N·m

(7) 新しいガスケットを取り付けたギヤオイルドレンプラグを締めます。

要　点：

取り付けの前に、ギヤオイルドレンプラグのねじ部とガスケットにギヤオイルを薄く塗ってください。

ギヤオイルドレンプラグ締め付けトルク；
7 N·m

JMU29318

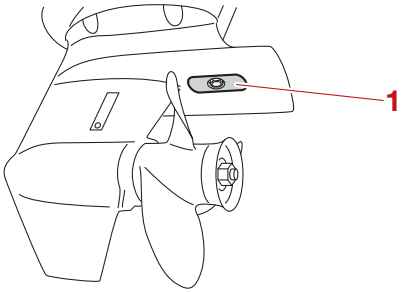
アノードの点検

アノードは、船外機を電食（水中の微弱電気による金属の腐食）から保護するためのものです。外部アノードの状態を点検し、新品の３分の１以上が消耗している場合は交換します。外部アノードの交換は、ヤマハ取扱店で行なってください。

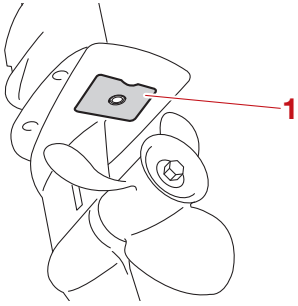
JCM00721

注 意

電食防止効果がなくなりますので、アノードに塗料を塗らないで下さい。



1. アノード



1. アノード

要 点：

外部アノードにアース線が付いている機種の場合は、アース線の取り付け状態を点検してください。
エンジン内部に付いているアノードの点検と交換については、ヤマハ取扱店にご相談ください。

JMU29324

バッテリーの点検（電動始動仕様）

JWM01903

警 告

バッテリーの電解液は有害で腐食性があり、バッテリーから爆発性の水素ガスが発生します。バッテリーの近くで作業する場合は：

- **ゴーグル(目を保護する)とゴム製手袋を着用してください。**
- **バッテリーの近くでタバコを吸ったり、その他の火種をバッテリーに近づけたりしないでください。**

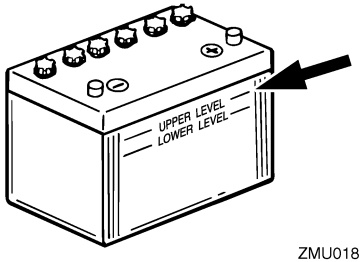
バッテリーの点検手順はバッテリーによって異なります。ここでは、多くのバッテリーに適用される一般的な点検方法を示しますが、バッテリーの取扱説明書を必ず参照して点検作業を行ってください。

JCM01921

注 意

整備を怠るとバッテリーは早く劣化します。

(1) 電解液の量を点検します。



ZMU01810

(2) バッテリーの充電状態を点検します。ボートにデジタルスピードメーターが装備されている場合は、電圧計とバッテリー警報表示によってバッテリーの充電状態を調べることができます。デジタルスピードメーターが装備されていない場合、またはバッテリーの充電をする必要があるときは最寄りのヤマハ販売店にご相談ください。

(3) バッテリーターミナルの点検をします。バッテリーターミナルに汚れやゆるみがなく、絶縁カバーが取り付けられていることを点検します。**警告！ 接続が不完全な場合、短絡またはアーク放電が発生し爆発を引起す可能性があります。**
[JWM01913]

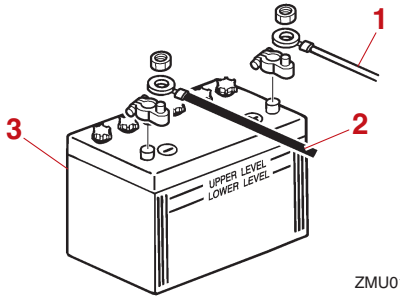
JMU29335
バッテリーの取り付け
JWM00573
⚠警 告

バッテリーは船内の乾燥した、換気の良い、振動の少ない水平な場所に確実に固定してください。

JCM01125
注 意

バッテリーコードの（+）と（-）を逆に接続しないでください。電装品の故障等の原因になります。

(1) バッテリーに関する作業をおこなう前にメインスイッチが **"OFF"** になっていることを確認してください (メインスイッチが装備されている場合)。
(2) バッテリーコードの接続は先に赤コード端子を (+) 側に、後から黒コード端子を (-) 側に確実に取り付けてください。



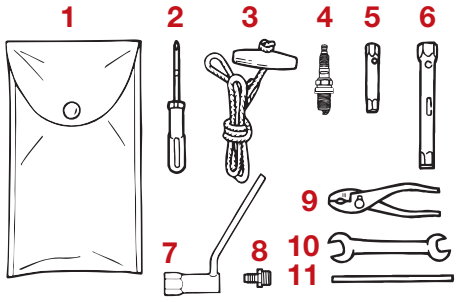
ZMU01811

1. 赤コード
2. 黒コード
3. バッテリー

(3) バッテリー端子とバッテリーコードの接続は、接触面がきれいな状態で確実に行ってください。接触面に汚れ、ゆるみ等があると、エンジンの始動ができなくなる恐れがあります。

JMU29372
バッテリーの取り外し
(1) バッテリーカットオフスイッチ（装備されている場合）とエンジンスイッチを **"OFF"** にします。***注意：*スイッチを "ON" のままにすると、電気系統が損傷する恐れがあります。**[JCM01931]
(2) (-) ターミナルからバッテリーコードを外します。***注意：*ショートと電気系統の損傷防止のために、かならず最初に (-) ターミナルからバッテリーコードを外してください。**[JCM01941]
(3) (+) ターミナルからバッテリーコードを外し、バッテリーをボートから下ろします。
(4) メーカーの指示に従いバッテリーを清掃、手入れして保管します。

JMU30112
付属工具と部品



1. 工具袋
2. ドライバー (+/-)
3. 応急始動ロープ
4. スパークプラグ
5. ボックスレンチ (10-12)
6. ボックスレンチ (14-21)
7. スパークプラグレンチ

8. 水道ホースアダプター
9. プライヤー
10.スパナ (8-10)
11.ハンドル

JMU29428

故障と対策

万一、故障が生じたときは、ヤマハ取扱店で点検を受けてください。一般的に考えられる故障を選び、その想定される原因を列記いたします。（機種や仕様により該当しない項目も含まれております）
不安な箇所がありましたら、できるだけそのままの状態でヤマハ取扱店に連絡し専門技術者におまかせください。
エンジン警報付き機種で警報表示が点滅している場合は、ヤマハ取扱店で点検を受けてください。

スターターモーターが動かない

Q. バッテリーの性能が低下していませんか？規定容量以外のバッテリーを使用していませんか？
A. バッテリー状態の点検。規定容量のバッテリーの使用。

Q. バッテリーターミナルが緩んでいませんか？または腐蝕していませんか？
A. バッテリーコードの締め付け、ターミナルの清掃。

Q. ヒューズが切れていませんか？
A. 原因を調べ、新しいものに交換。

Q. スターターモーターが故障していませんか？
A. ヤマハ取扱店にて修理。

Q. 前進、または後進にシフトが入っていませんか？
A. 中立（ニュートラル）に戻す。

エンジンが始動しない。（スターターモーターは動く）

Q. 燃料タンクが空になっていませんか？
A. 燃料を入れる。

Q. 燃料が汚染されている、または古くなっていませんか？
A. 新しい、きれいな燃料へ交換。

Q. 燃料フィルターが詰まっていませんか？
A. 清掃、または交換。

Q. 始動手順が間違っていませんか？
A. 34 ページを参照ください。

Q. 燃料ポンプが故障していませんか？
A. ヤマハ取扱店にて修理。

Q. スパークプラグが不良になっていませんか？または、推奨以外のスパークプラグを使用していませんか？
A. 電極の清掃、または交換。

Q. スパークプラグキャップが外れていませんか？
A. 正しく取り付ける。

Q. 配線が接続不良、または損傷していませんか？
A. 接続の確認、または配線の交換。

Q. 電装部品が故障していませんか？
A. ヤマハ取扱店にて修理。

Q. エンジンシャットオフコードのロックプレートが外れていませんか？
A. 緊急エンジン停止スイッチにロックプレートを差し込む。

Q. エンジン内部が損傷していませんか？
A. ヤマハ取扱店にて修理。

アイドリング（無負荷最低速回転）が不安定、またはエンストする。

Q. スパークプラグが不良になっていませんか？

A. 電極の清掃、または交換。

Q. 燃料ホースが圧迫されていませんか？
A. 燃料ホース取り回しの点検。

Q. 燃料が汚染、または古くなっていませんか？
A. 新しい、きれいな燃料へ交換。

Q. 燃料フィルターが詰まっていませんか？
A. 清掃、または交換。

Q. 電装部品が故障していませんか？
A. ヤマハ取扱店にて修理。

Q. 警報機構が作動していますか？
A. ヤマハ取扱店で点検を受けてください。

Q. スパークプラグギャップが適切ですか？
A. 正規の隙間に合わせる。

Q. 配線が接続不良、または損傷していませんか？
A. 接続の確認、または配線の交換。

Q. 推奨外オイルを使用していませんか？
A. 推奨オイルへ交換。

Q. サーモスタットが不良になっていませんか？
A. ヤマハ取扱店にて修理。

Q. キャブレタが調整不良になっていませんか？
A. ヤマハ取扱店にて修理。

Q. 燃料ポンプが故障していませんか？
A. ヤマハ取扱店にて修理。

Q. エアベントスクリュが閉まっていませんか？
A. エアベントスクリュを開ける。

Q. チョークノブが引かれていませんか？
A. チョークノブを戻す。

Q. チルトを上げ過ぎていませんか？
A. チルトを下げる。

Q. キャブレタが詰まっていませんか？
A. ヤマハ取扱店にて修理。

Q. 燃料ホースが接続不良になっていませんか？
A. 接続箇所の点検。

Q. スロットルバルブが調整不良になっていませんか？
A. ヤマハ取扱店にて修理。

Q. バッテリーコードが外れていませんか？
A. 確実に接続。

警報ブザーが鳴る、または警報灯が点灯する。
Q. 冷却経路が詰まっていませんか？
A. 冷却水取入口の点検。

Q. エンジンオイル不足になっていませんか？
A. 規定量まで補充。

Q. スパークプラグ熱価が適切ですか？
A. 正規熱価のものに交換。

Q. 推奨外オイルを使用していませんか？
A. 推奨オイルへ交換。

Q. オイルが劣化していませんか？
A. 新しいオイルへ交換。

不具合時の対応

Q. オイルフィルターが詰まっていませんか？
A. ヤマハ取扱店にて修理。

Q. オイルポンプが故障していませんか？
A. ヤマハ取扱店にて修理。

Q. ボートが過重荷になっていませんか？
A. ビルジ、積み荷等の確認。

Q. ウォーターポンプ、またはサーモスタットが故障していませんか？
A. ヤマハ取扱店にて修理。

Q. 燃料フィルターカップ内に水が入っていませんか？
A. フィルターカップ内の排水。

エンジンの力がない。
Q. プロペラが損傷していませんか？
A. プロペラの交換。

Q. プロペラサイズが適切ですか？
A. 指定回転範囲に適合するプロペラへ交換。

Q. トリム角度が調整不良になっていませんか？
A. 再調整。

Q. 船外機取り付け高さが適切ですか？
A. 再調整。

Q. 警報機構が作動しますか？
A. ヤマハ取扱店で点検を受けてください。

Q. 船底への貝、海草類が付着していませんか？
A. 清掃。

Q. スパークプラグが適切ですか？
A. 電極の清掃、または交換。

Q. 船外機への貝、海草類が付着していませんか？
A. 清掃。

Q. 燃料ホースが圧迫されていませんか？
A. 燃料ホース取り回しの点検。

Q. 燃料フィルターが詰まっていませんか？
A. 清掃、または交換。

Q. 燃料が汚染、または古くなっていませんか？
A. 新しい、きれいな燃料へ交換。

Q. スパークプラグギャップが適切ですか？
A. 正規の隙間に合わせる。

Q. 配線が接続不良、または損傷していませんか？
A. 接続の確認、または配線の交換。

Q. 電装部品が故障していませんか？
A. ヤマハ取扱店にて修理。

Q. 推奨外燃料を使用していませんか？
A. 推奨燃料へ交換。

Q. 推奨外オイルを使用していませんか？
A. 推奨オイルへ交換。

Q. サーモスタットが不良になっていませんか？
A. ヤマハ取扱店にて修理。

Q. エアベントスクリュが閉まっていませんか？
A. エアベントスクリュを開ける。

Q. 燃料ポンプが故障していませんか？

A. ヤマハ取扱店にて修理。

Q. 燃料ホースが接続不良になっていませんか？
A. 接続箇所の点検。

Q. スパークプラグ熱価が適切ですか？
A. 正規熱価のものに交換。

Q. 高圧燃料ポンプベルトが切れていませんか？
A. ヤマハ取扱店にて修理。

Q. シフトポジションスイッチが作動不良になっていませんか？
A. ヤマハ取扱店にて修理。

振動が大きい。
Q. プロペラが損傷していませんか？
A. プロペラの交換。

Q. プロペラシャフトが損傷していませんか？
A. ヤマハ取扱店にて修理。

Q. 海藻、貝類がプロペラへ付着していませんか？
A. 除去、清掃。

Q. 船外機取り付けボルト等が緩んでいませんか？
A. 締め付け。

Q. ハンドルスイベル部が緩み、または損傷していませんか？
A. 締め付け、またはヤマハ取扱店にて修理。

JMU29435

応急処置

JMU29442

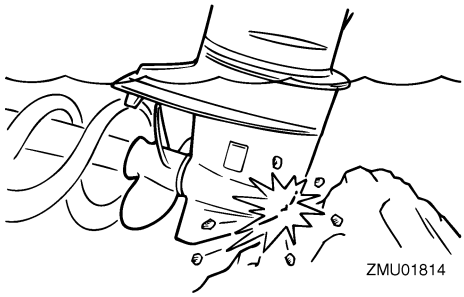
衝撃を受けた場合

JWM00871

⚠警 告

船外機は航走中に、水中の浮遊物等との衝突による重大な損傷を受けることがあります。損傷を受けた船外機は安全に航走できません。

航走中の船外機に水中の物体が当たった場合は、次の手順に従ってください。



(1) エンジンを停止してください。
(2) 各部の作動を確認し、さらに各部品の損傷も点検してください。また、ボートの損傷具合も調べてください。
(3) ゆっくりと細心の注意をはらいながら、最寄りの港へ引き返してください。
(4) 再度ご使用になる前に、必ずヤマハ取扱店の点検を受けてください。

JMU30684

ヒューズの交換

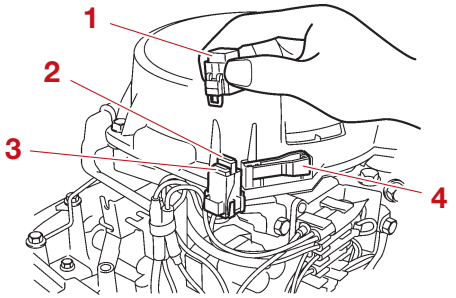
ヒューズが切れたときは、ヒューズプーラーを使用し同容量のスペアと交換します。

JWM00632

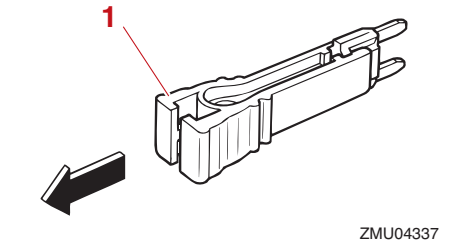
⚠警 告

規定容量のヒューズを使用してください。規定容量以外のヒューズを使用すると、電装系の故障や火災の原因となる恐れがあります。

新しいヒューズに替えてもすぐに切れる場合は、ヤマハ取扱店にご相談ください。



1. カバー
2. ヒューズ（10 A）
3. スペアヒューズ（10 A）
4. ヒューズプーラー



1. ヒューズプーラー

JMU39792

始動装置が作動しない場合

始動装置が作動しない場合は、応急始動用ロープでエンジンを始動することができます。

JWM02362

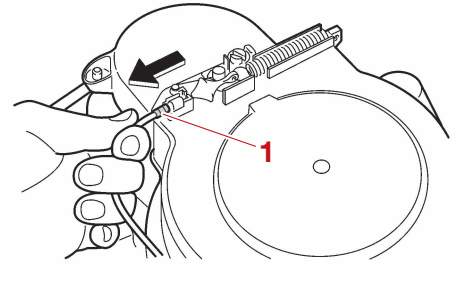
⚠警 告

- **応急始動の操作は始動装置が作動しない場合に限って行い、エンジン始動後は最寄の港へ帰港してください。**
- **シフトを必ず中立（ニュートラル）にしてください。応急始動用ロープを使用してエンジンを始動する場合、始動安全装置は作動しません。ボートが急発進し、事故につながる恐れがあります。**
- **応急始動用ロープを引いてエンジンを始動させるときには、背後に人が居ないことを確認してください。**
- **エンジン始動の際には、衣服等を巻き込まれないようにしてください。**
- **エンジン始動後には、フライホイールや他の回転部分に触れないようにしてください。**
- **エンジン始動後には、手動始動装置やトップカウルを取り付けないでください。**
- **エンジン運転中には、イグニションコイル、高圧線、スパークプラグ等に触れないようにしてください。感電する恐れがあります。**

JMU29563

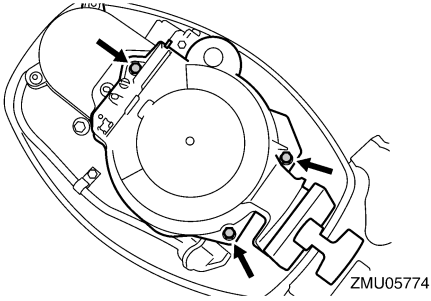
応急始動

(1) トップカウルを外します。
(2) 始動安全装置が装備されている機種は、始動安全ケーブルを外します。



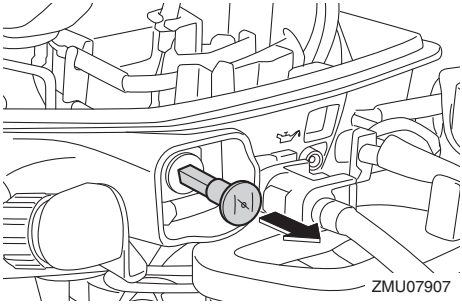
1. 始動安全ケーブル

(3) ボルトを外して手動始動装置 / フライホイールカバーを外します。


ZMU05774

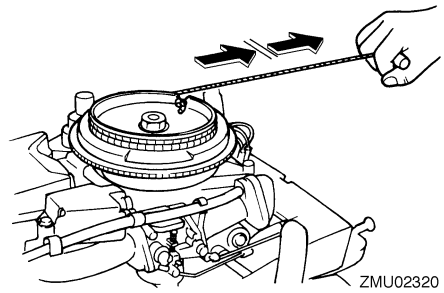
(4) 34 ページを参照して始動の準備をします。シフトを中立（ニュートラル）にして、緊急エンジン停止スイッチ（装備されている場合）にエンジンシャットオフコードのロックプレートを差し込みます。エンジンスイッチの装備されているものは、**"ON"** にします。

(5) エンジンが冷えているときはチョークノブを引きます。エンジンが始動し、暖まってきたら、徐々にチョークノブを元の位置まで戻します。


ZMU07907

(6) 応急始動用ロープの結び目をフライホイールの切り欠きに入れ、時計方向に 1 ～ 2 回巻き付けます。

(7) 抵抗を感じるところまでロープをゆっくりと引き、そこから一気に引っ張ります。一度で始動しない場合は操作を繰り返してください。


ZMU02320

JMU29672

エンジンが正しく作動しない場合

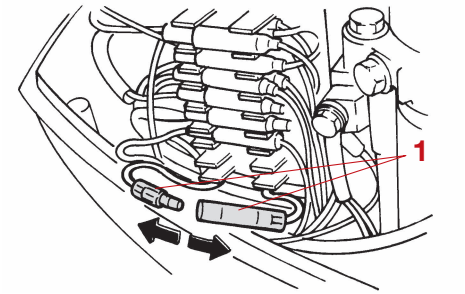
JMU35322

非常時のエンジン操作

バッテリー電圧の低下や、電装装置に不具合が生じた場合には、エンジン回転数が不安定になったり、停止したりします。このような場合は、次の処置を行なってください。

CDIユニットから出ている黄色の結線を外します。

低速で運転を行ない、最寄りの港まで引き返してください。***注意：*****この操作は、非常時に修理のために最寄りの港まで引き返すときに限って行なってください。**[JCM00382]



1. 黄色の結線

不具合時の対応

JMU33502

船外機を水中に落とした場合

船外機を水没させた場合は、直ちにヤマハ販売店までお持ちください。エンジン内各部に錆や腐食が発生する原因となります。***注意：*** **ヤマハ取扱店での分解整備を受けずに再使用しないでください。**[JCM00402]

附録

JMU49120

メンテナンスに関する各種サポート情報

販売店検索や部品、メンテナンスに関する各種サポート情報は下記アドレスまたはQRコードにアクセスください。

ヤマハ　マリン　で検索。

メンテナンスガイド

- メンテナンスのポイント
- 点検方法
- サポートプログラム

https://www.yamaha-motor.co.jp/marine/life/maintenance/?utm_source=boat_manual&utm_medium=qrcode&utm_campaign=maintenance

ボートのよくある質問はこちら

- Q&A

https://www.yamaha-motor.co.jp/marine/life/maintenance/qa/?utm_source=boat_manual&utm_medium=qrcode&utm_campaign=qa

お問合せ・製品サポート

- よくある質問と回答
- 販売店検索
- 部品情報検索

https://www.yamaha-motor.co.jp/support/?utm_source=boat_manual&utm_medium=qrcode&utm_campaign=inquiry#support-marine

ボートを永く楽しんでいただくために

- ヤマハマリンライフ

https://www.yamaha-motor.co.jp/marine/life/?utm_source=boat_manual&utm_medium=qrcode&utm_campaign=marinelife

JMU30136

お客様窓口のご案内

お買い上げいただきました製品に関するご相談は、「ご購入店」またはお近くの「販売店」までお願いいたします。

お問い合わせの際、お客様へ確実に迅速に対応させていただくため、あらかじめ下記の事項をご確認の上、ご相談お申しつけください。

①商品名
②型式および製造番号
③ご購入年月日
④ご購入先

お買い上げいただいた販売店が点検・修理をはじめ、サービスのご相談などをお受けいたします。

ご購入店

エリア	営業所	TEL
北海道 東　北 関　東	ヤマハ発動機(株)　国内営業部サービスグループ横浜	045-775-2450
中　部 関　西 中　国 四　国	ヤマハ発動機(株)　国内営業部サービスグループ大阪	06-6302-2004
九　州	ヤマハ発動機(株)　国内営業部サービスグループ福岡	092-885-6523

営業時間　月曜～金曜(祝日、弊社所定の休日等を除く)　9:00～12:00　13:00～17:00

ヤマハ発動機株式会社　カスタマー コミュニケーション センター
〒438-8501 静岡県磐田市新貝2500　**0120-090-819**
受付時間　月曜～金曜（祝日､弊社所定の休日等を除く）　9:00～12:00　13:00～17:00

索引

ア

アイドル回転数の点検 60
浅瀬航走 46
アノードの点検 66
安全にお使いいただくために 1

イ

一酸化炭素 2
飲酒と薬の服用について 2

ウ

運搬と保管 49

エ

エンジンオイル 31
エンジンオイルに関する項目 12
エンジンオイルの交換 60
エンジンオイルの補給 29
エンジンが正しく作動しない場合 75
エンジン始動 34
エンジン始動後の点検 40
エンジン始動ボタン 20
エンジンシャットオフコード（ランヤード） 1, 30
エンジン操作 33
エンジン停止 42
エンジン停止スイッチ 41
エンジン停止ボタン 20
エンジン内部冷却経路の洗浄 53
塩水域や泥水域での航行 47

オ

応急始動 74
応急処置 73

カ

改造 2
回転部品 1
カウルロックレバー 22
各部の名称 15
過積載 3
ガソリン 2, 13
ガソリンの蒸発と流出の注意 2
感電の危険性 1

キ

ギヤオイル 13
ギヤオイルの交換 65
ギヤシフトレバー 18
緊急エンジン停止スイッチ 19

ク

グリス給脂箇所 58

ケ

計器類・警報灯／表示 24
警告ラベル 6
警報装置 25
警報灯 23

コ

高温部品 1
故障と対策 70
コントロールシステムの点検 30

シ

始動安全装置 12
始動装置が作動しない場合 74
始動前点検 30
シビアコンディション 54
シフト操作の点検（暖機運転後） 41
潤滑 52
衝撃を受けた場合 73
仕様諸元 9
乗船者 2
乗船者の訓練 4
衝突を回避する 3

ス

水洗装置 22, 31
水槽を使った洗浄 51
水中の障害物および浮遊物への注意 3
ステアリングフリクション アジャスター 21
スパークプラグの点検 59
スロットルインジケーター 19
スロットルコントロールグリップ 18
スロットルフリクション アジャスター 19

セ

製造番号の記録 5
船外機外装の点検 54
船外機製造番号 5
船外機トリム角度 43
船外機の洗浄 53
船外機の取り付け 10, 28
船外機の取り付け高さ 27
船外機の取り外し 49
船外機の廃棄に関する項目 14
船外機本体の点検 31
船外機を水中に落とした場合 76
前進／後進 41
船底の清掃 14

タ

暖機運転 40
暖機運転後の点検 41

チ

チョークノブ 20
長期保管 51
チルトアップ／ダウン 45
チルトサポートバー 22
チルトピン 21
チルトロック機構 22

テ

定期点検 54
定期点検表 1 55
定期点検表 2 56
泥水または酸性水での航行 13
停船 42
ティラーハンドル 18
天候 4

ト

トップカウルの取り付け 32
トップカウルの取り外し 30

ナ

慣らし運転 29

ネ

燃料供給（燃料タンク別体仕様） 34
燃料系統 30
燃料残量 30
燃料タンク 17
燃料タンクへの給油 32
燃料に関する項目 13
燃料フィルターの点検 59
燃料漏れの点検 30

ハ

配線と各接続部の点検 62
初めてお使いになる前に 29
バッテリー 32
バッテリーの取り付け 68
バッテリーを取付けるには 11
バッテリーに関する項目 10
バッテリーの点検 67
バッテリーの取り外し 68

ヒ

非常時のエンジン操作 75
非常時の装備 14
ヒューズの交換 73

フ

付属工具と部品 68
プロペラ 1, 11
プロペラの点検 62
プロペラの取り付け 64
プロペラの取り外し 63

ホ

ボート運転安全性 2
ボート航行の安全に関する告知 4
ボートトランサムへの取り付け 26
ボートの定格馬力 10
ボートへの設置条件 10
法令および規制 4

マ

マニュアルスターターハンドル 20
マニュアル類と製品安全ラベルを
お読みください 6

索引

ユ

油圧低下警報 25
油圧低下警報表示 24
遊泳者への注意..... 2

ラ

ライフジャケット 2

レ

冷却水 40

JMU30143

不許複製

名称： F9.9J, FT9.9L
船外機取扱説明書
部品番号： 6DR-28199-0D
発行： ヤマハ発動機株式会社
2024 年 10 月



Printed in Japan
December 2024–0.1 × 1 CR